

館 山 自 動 車 道
豊 成 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事

設 計 図

【浜野橋】

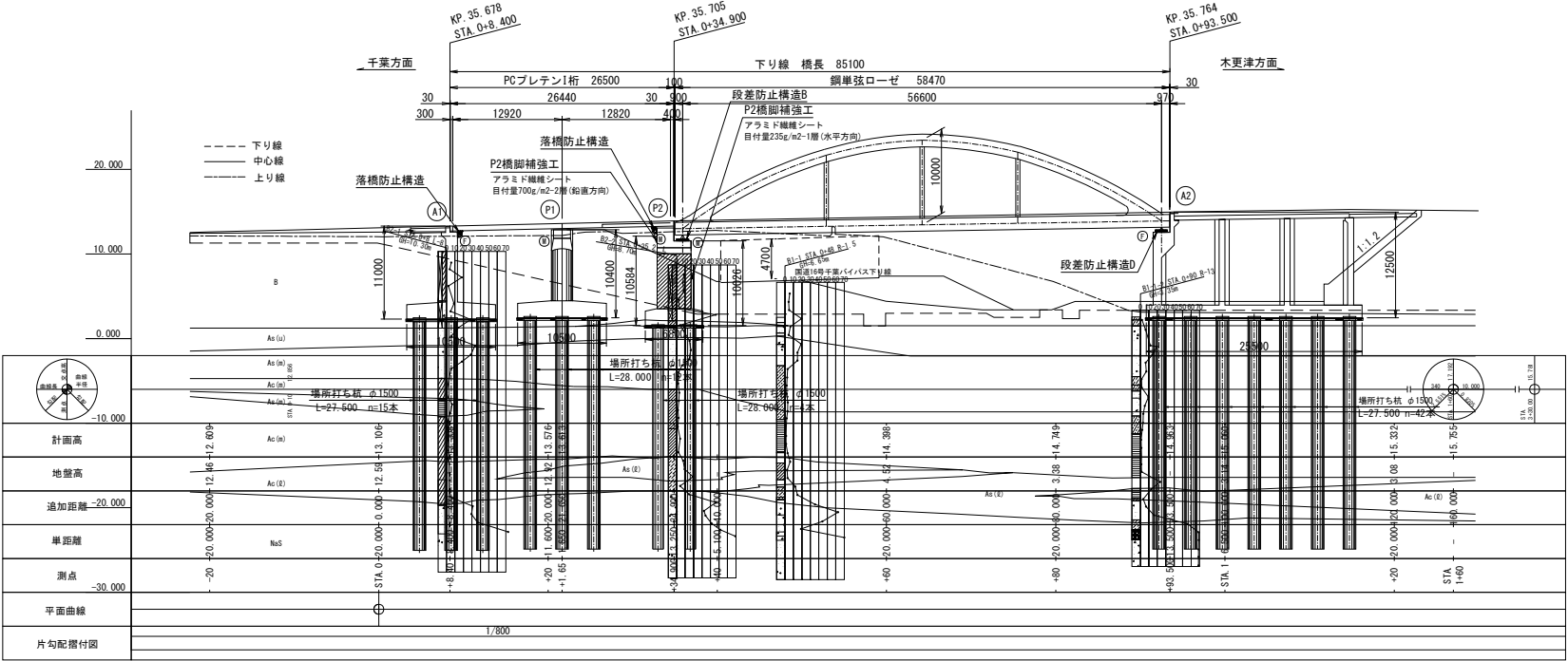
令和 7 年 1 1 月

東日本高速道路株式会社
関東支社市原管理事務所

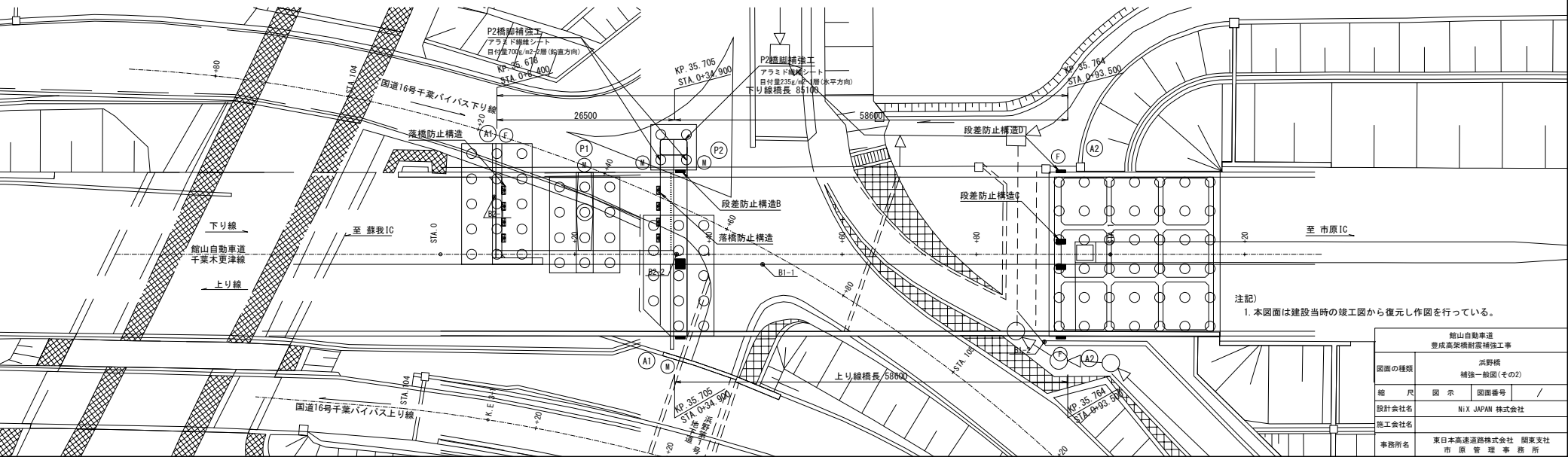
図 面 目 次

図 面 名	図 番
1 . 浜野橋 補強一般図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 1 ～ 3
2 . 浜野橋 (下り線) P2橋脚 構造物掘削図 特殊部B	・ ・ ・ ・ 4
3 . 浜野橋 (下り線) P2橋脚 補強詳細図(その1～2)	・ ・ ・ ・ 5 ～ 6
4 . 浜野橋 (下り線) A1橋台 落橋防止構造 配置図	・ ・ ・ ・ 7
5 . 浜野橋 (下り線) A1橋台 落橋防止構造 構造図(その1～2)	・ ・ ・ ・ 8 ～ 9
6 . 浜野橋 (下り線) P2橋脚 落橋防止構造 配置図	・ ・ ・ ・ 10
7 . 浜野橋 (下り線) P2橋脚 落橋防止構造 構造図(その1～2)	・ ・ ・ ・ 11 ～ 12
8 . 浜野橋 (上下線) 段差防止構造 構造図(参考図)(その1～2)	・ ・ ・ ・ 13 ～ 14
9 . 浜野橋 (下り線) A1橋台 施工計画図(参考図)	・ ・ ・ ・ 15
10 . 浜野橋 (下り線) P2橋脚 施工計画図(参考図)(その1～3)	・ ・ ・ ・ 16 ～ 18
11 . 浜野橋 (上下線) 段差防止構造施工計画図(参考図)	・ ・ ・ ・ 19
12 . 浜野橋 (下り線) P2橋脚 一般道路交通規制図(参考図)(その1～3)	・ ・ ・ ・ 20 ～ 22

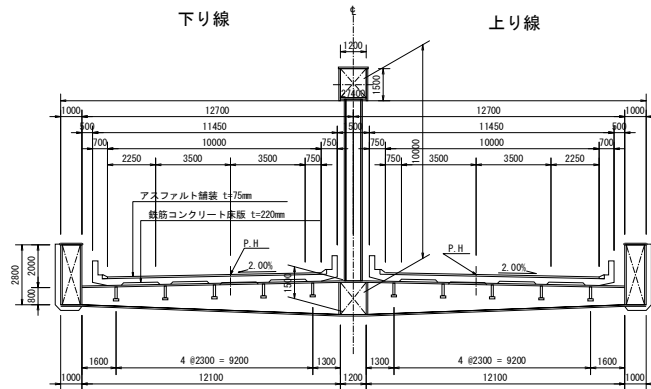
側面図
(下り線)



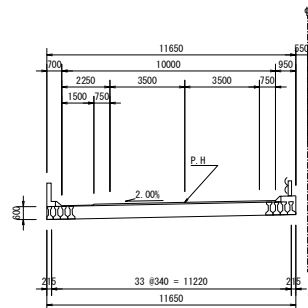
平面図



標準断面図 S=1:250

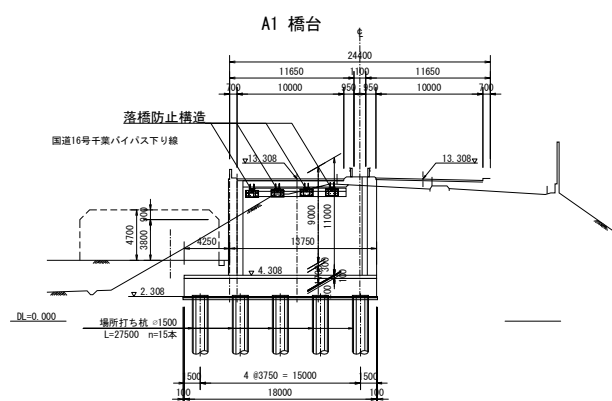


下り線

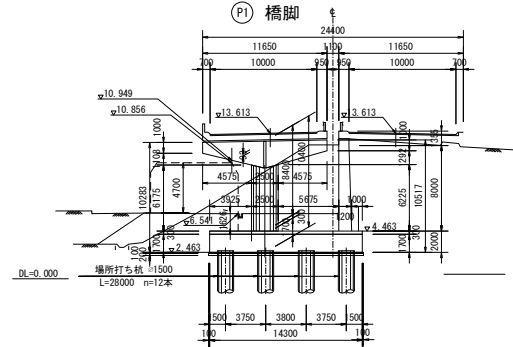


断面図 S=1:500

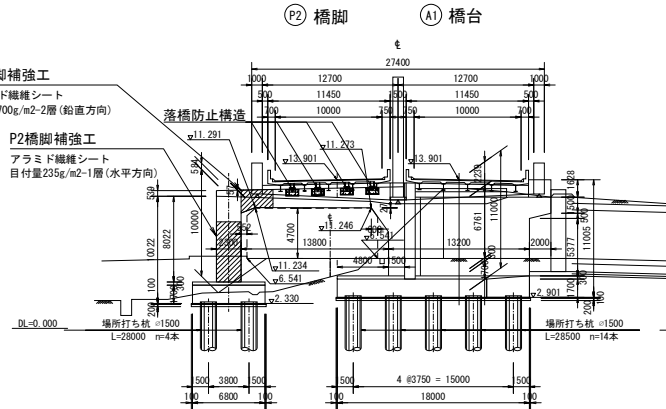
STA 0+8.400 下り線 上り線



STA 0+21.650 下り線 上り線



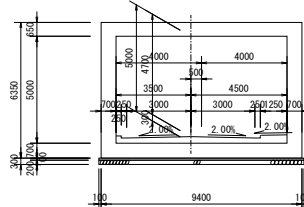
STA 0+34.900 下り線 上り線



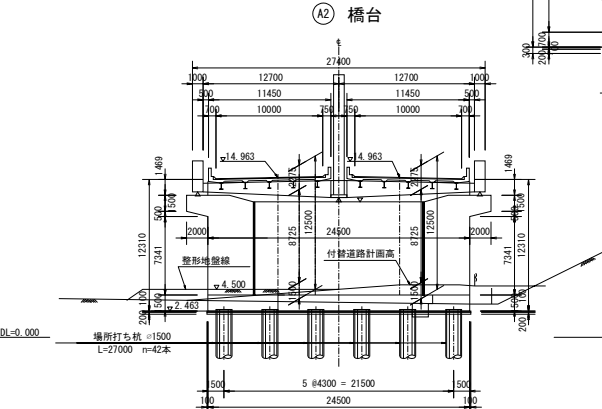
P2橋脚補強工
アラミド繊維シート
目付量700g/m²-2層(鉛直方向)

P2橋脚補強工
アラミド繊維シート
目付量235g/m²-1層(水平方向)

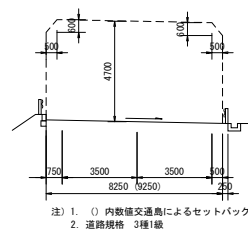
浜野第1号地下道 S=1:250



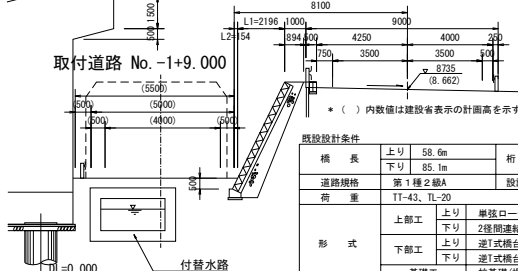
STA 0+93.500 下り線 上り線



交差条件
国道16号千葉バイパス下り線標準幅員構成 S=1:250

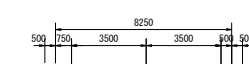


国道16号下り線 STA. 105+11.000



設計条件	上り	58.6m	橋 長	上り	58.47m
	下り	85.1m		下り	26.44m+58.47m
道路規格	第1種2級A		設計速度	V=100km/h	
荷 重	TT-43, TL-20				
形 式	上部工	単路ローゼ桁			
		下り	2径間連続PCプレテン[桁]桁、単路ローゼ桁		
	下部工	上り	逆T式橋台、箱式橋台、		
		下り	逆T式橋台、箱式橋台、橋出し式橋脚、ラーメン式橋脚		
	基礎工	杭基礎(場所打ち杭φ1500)			
支 間	上り	56.6m	下り	12.92m+12.82m+56.6m	
有効幅員	上り	10.0m	下り	10.0m	
幅員構成	上り	11.45m	下り	11.45m	
斜 角	90° 00' 00"				
横断勾配	上り 2.00% 2.00%		縦断勾配	上り 2.551% 0.830%	
舗 装	アスファルト舗装 t=75mm(今照査時t=80mm想定)				
床 版	コンクリート床版				
壁 高 欄	直立式+遮音壁(天端取付け)				
重要度区分	B種				
地域区分	レベル1	A2地域 (c ₁ =1.0)			
	レベル2	タイプⅠ	A2地域 (c ₁ =1.0)		
		タイプⅡ	A2地域 (c ₁ =1.0)		
	設計水平曲率	橋軸方向	レベル1	レベル2(タイプⅠ)	レベル2(タイプⅡ)
		橋軸直角方向	0.24	動的照査法(今照査)	動的照査法(今照査)
固有周期		橋軸方向	0.24	動的照査法(今照査)	動的照査法(今照査)
		橋軸直角方向	0.25a(今照査)	0.25a(今照査)	0.25a(今照査)
	橋軸直角方向	-	0.25a(今照査)	0.25a(今照査)	
支 承 条 件	形 式	PC橋: ゴム支承(M・F)、鋼橋: 支承板支承(M・F)			
	橋軸方向	鋼橋	A1橋台: 可動、A2橋台: 固定		
		PC橋	A1・A2橋台: 固定、P1・P2橋脚: 可動		
	橋軸直角方向	鋼橋	A1・A2橋台: 可動、A2橋台: 固定		
		PC橋	A1・A2橋台: 固定、P1・P2橋脚: 可動		
使用材料	上部工	鋼材	SM50Y、SM53、SM58、PC鋼より線10.8mm(SMPR7A)		
		コンクリート	σ _{ck} =50N/mm ² (主桁)、24N/mm ² (床版)		
		鉄筋	SD345		
	下部工	コンクリート	σ _{ck} =24N/mm ²		
		鉄筋	SD345		
		鋼材	-		
	基礎工	コンクリート	σ _{ck} =24N/mm ²		
		鉄筋	SD345		
適用示方書	道路橋示方書・同解説(H2.2)				

切りまわし道路標準幅員構成 S=1:250



注記)
1. 本図面は建設当時の竣工図から復元し作図を行っている。

図面の種類	浜野橋 補強一般図(その3)
縮尺	図示
図面番号	/
設計会社名	NIIX JAPAN 株式会社
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社
事務所名	土木管理事務所

(柱補強時)

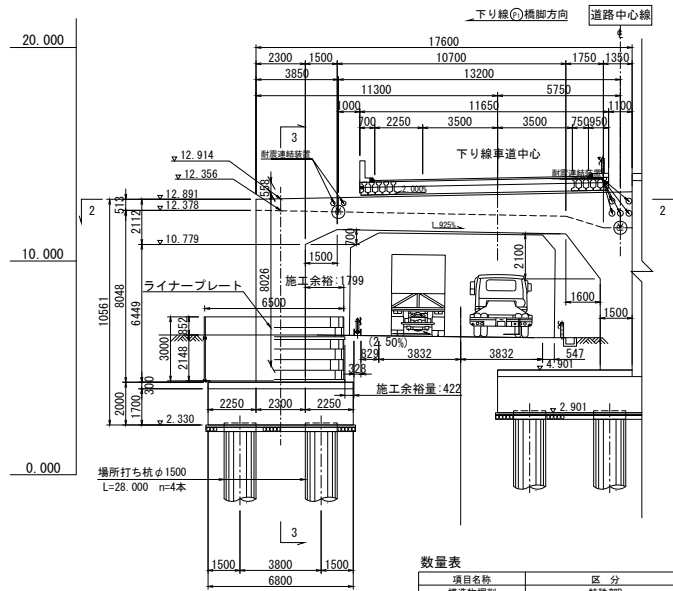
ライナープレート詳細図 S=1:20

正 面 图 (1 - 1)

断面图 (3-3)

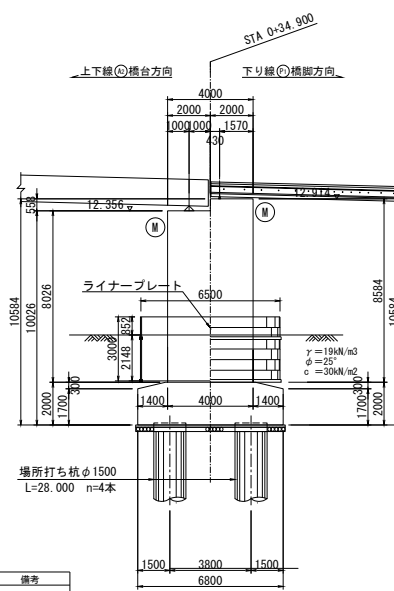
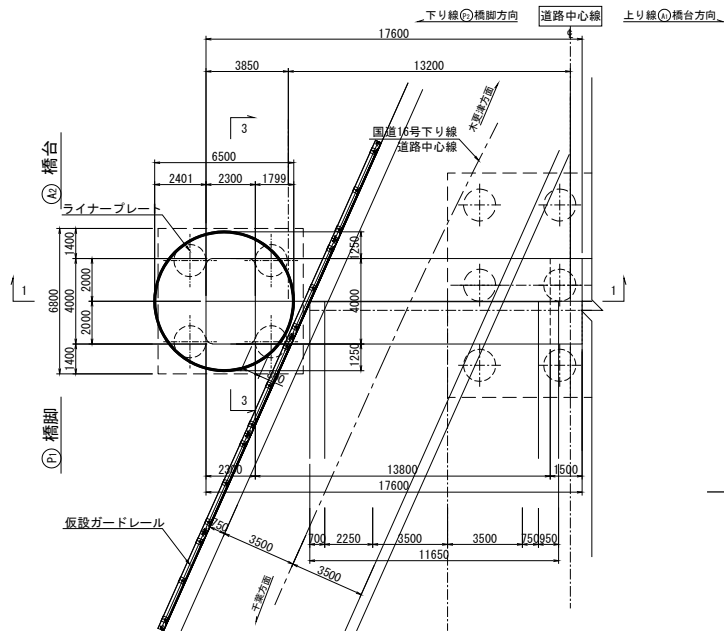
軸方向継手版詳細図(矢視)

CP-10



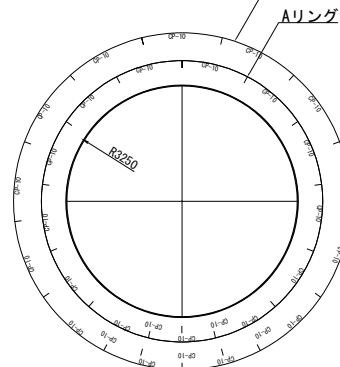
项目名称	区 分	单位	数量	備考
構造物掘削	特殊部B	m ³	67.3	

平面图 (2-2)

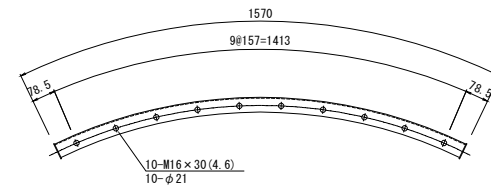
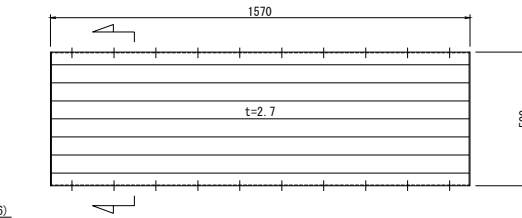
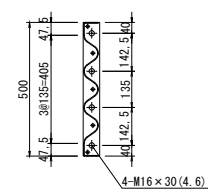
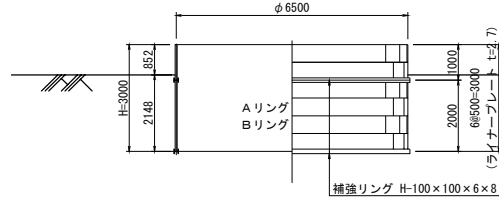


ライナープレート平面割付図 S=1:150

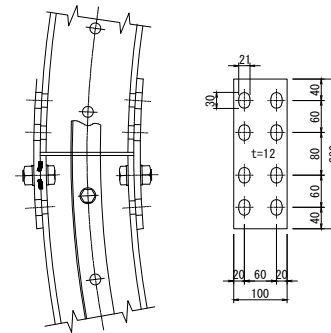
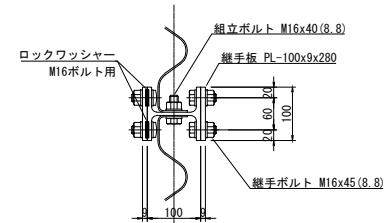
セクション構成図 Bリング



側 面 図 S=1:150



補強リング継手詳細図 S=1:10



材料表

名 称	寸 法	単体質量 (kg)	数 量	質 量 (kg)	備 考
ライナープレート	寸法(2.7~7mm)・・・H-3.0m				
ライナープレート	2.7×500×1570 (CP-10)	26.0	78	2028.0	黒皮
組立ボルト	M16×30 (4.6、LP用)	0.137	962	131.8	
組立ボルト	M16×40 (8.8、HR用)	0.151	260	39.3	
			小計	2199.1 kg	
補強リング(H=100)・・・2リング(継ぎ手部 4個所/1リング)					
補強リング	H=100×100×6×6×5103	86.2	8	689.6	黒皮、新旧構成
継手板	PL=100×9×280	1.98	16	31.7	黒皮
継手ボルト	M16×45 (8.8)	0.158	128	20.2	
ロックワッシャー	M16ボルト用	—	64	—	
			小計	741.5 kg	
			合計	2940.6 kg	

・本図面は竣工図面にに基づき作成している。
・施工前には事前に現地計測等を行い、現況との整合確認を行うこと。
・H形鋼継手板は、SS400または相当品とする。

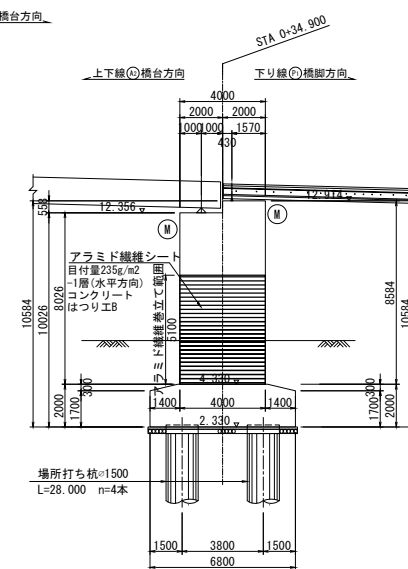
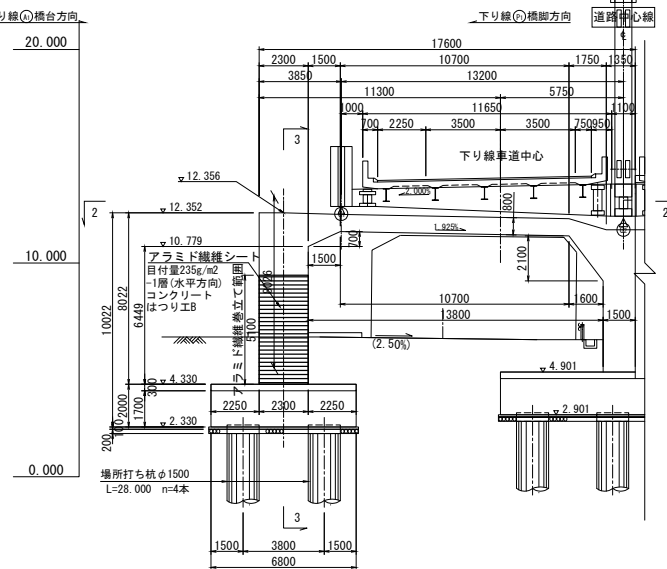
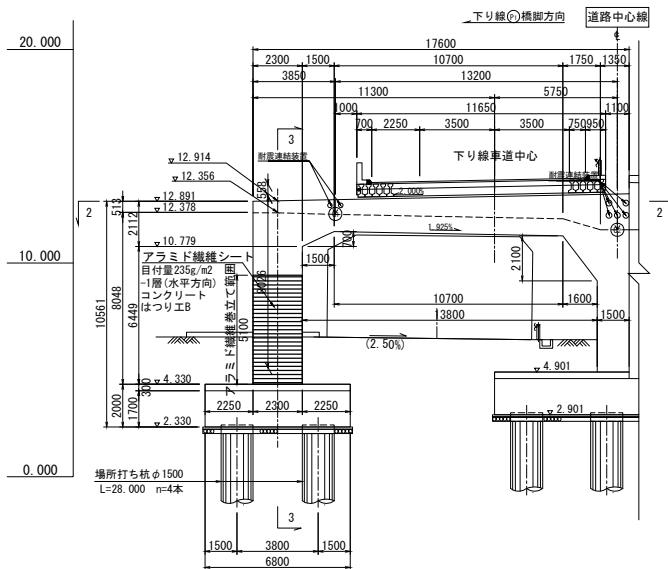
館山自動車道 壹成高架橋耐震補強工事				
図面の種類	浜野橋（下り線） P2橋脚 構造物部別図 特殊部B			
縮 尺	図 示	図面番号	/	
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所			

アラミド繊維巻立て工（柱補強図）

正面図（1-1）

背面図（2-2）

断面図（3-3）

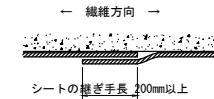
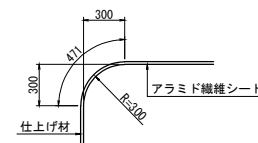
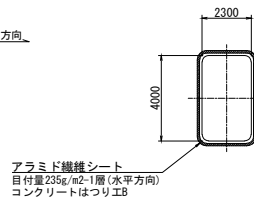
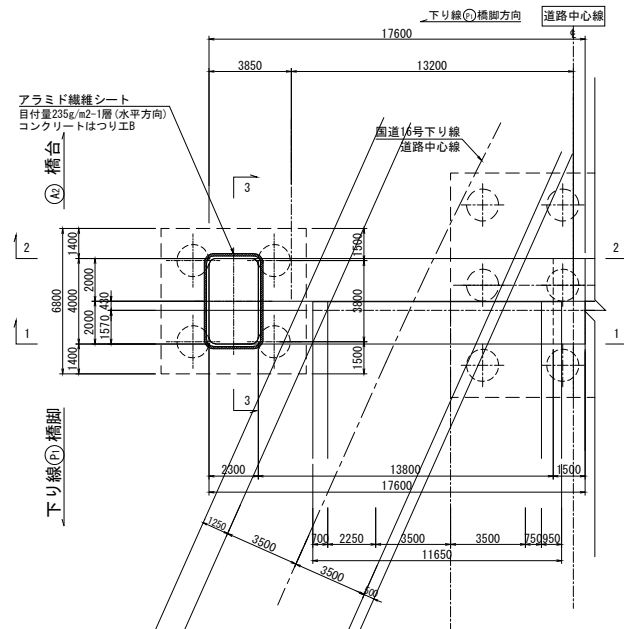


平面図（4-4）

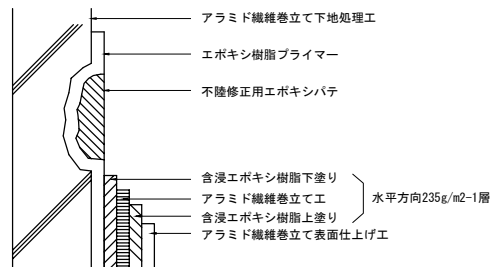
柱断面図

隅角部詳細図 S=1:40

継ぎ手部 S=1:20



アラミド繊維シート補強施工断面図



アラミド繊維シートの規格

規格	235g/m ²
シートの厚さ (mm)	0.169
目付量 (g/m ²)	235
引張強度 (N/mm ²)	2350
引張弾性率 (kN/mm ²)	78

数量表（柱一本あたり）

浜野橋（下り線） P2橋脚	
単価項目	数量
アラミド繊維巻立て下地処理工	61.6 m ²
アラミド繊維巻立て工 A	61.6 m ²
アラミド繊維巻立て表面仕上げ工 B	61.6 m ²
コンクリートはつり工 B	0.385 m ³

注記）

1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 現地調査の上で施工のこと。
3. 現況寸法を確認の上、詳細を決定すること。
4. 現地確認の結果、ひび割れ幅0.20mm以上のものについては、ひび割れ注入を行うこと。
5. 各施工は、結露や水分の付着がないことを確認した上、行うこと。また、気温5℃以下、雨天等湿度85%以上の場合は施工してはならない。
6. 不陸修正材の使用量は、下地状況を確認の上、決定すること。
7. コーナー部に水平方向継手を設けないこと。
8. 継手長さは200mm以上とし、重ね継手は1枚毎に千鳥配置とする。
9. 重ね継手部には段差が生じるが、パテ及びシート接着剤等塗り付ける。

館山自動車道 豊成高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浜野橋（下り線） P2橋脚 補強詳細図（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

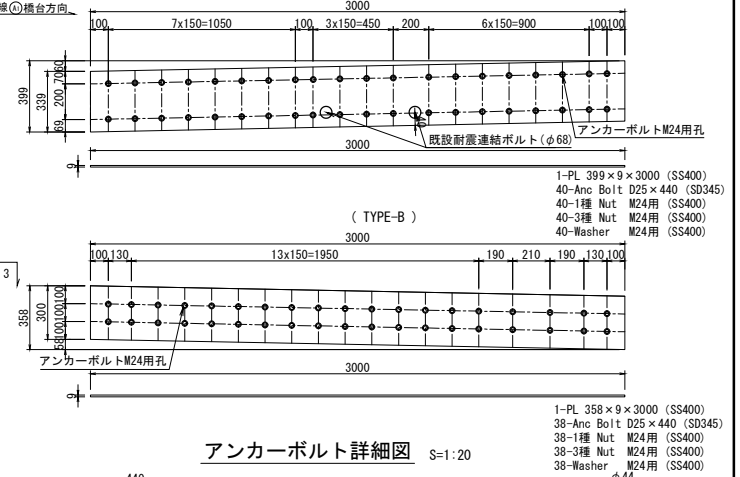
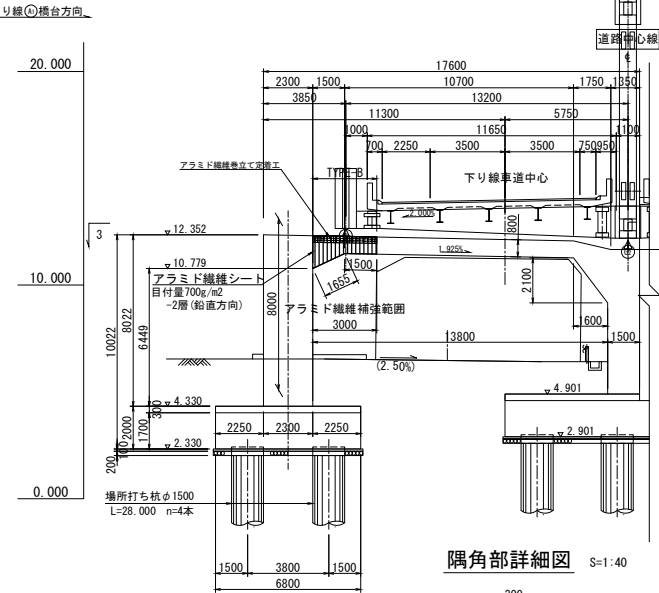
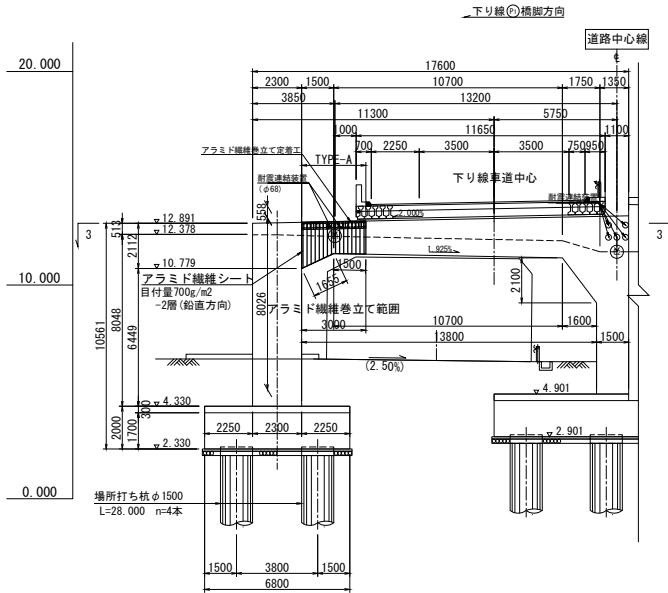
アラミド繊維巻立て工（梁補強図）

アラミド繊維巻立て定着工詳細図 S=1:30

正面図（1-1）

背面図（2-2）

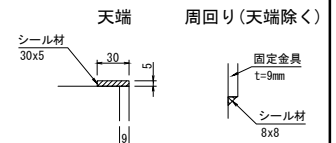
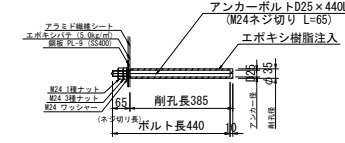
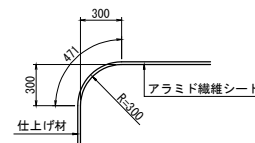
下り線の橋脚方向 上り線の橋台方向



隅角部詳細図 S=1:40

アンカーボルト取付詳細図 S=1:20

シート材詳細図 S=1:5

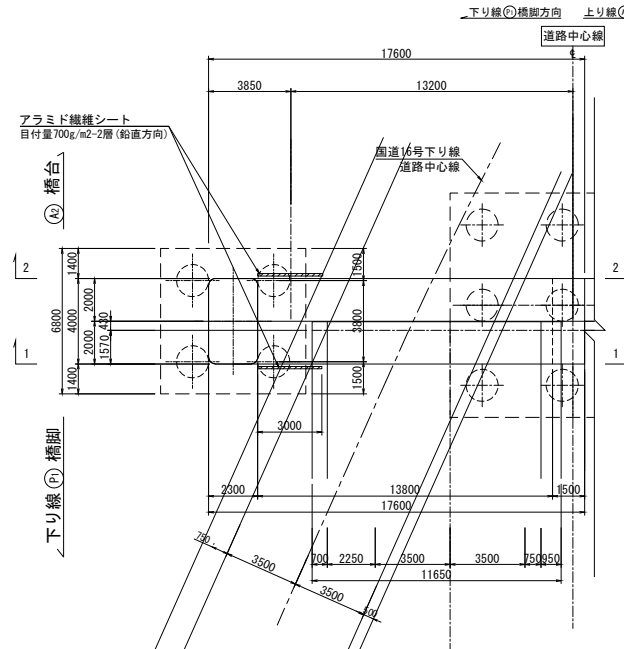


平面図（3-3）

シート設置範囲 S=1:250

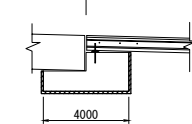
ハンチ部シート貼付け図 S=1:400

継ぎ手部 S=1:20



（梁断面図）

A2橋台 下り線P1橋脚



step1:

吊足増設置時に先に梁側面を貼り付け

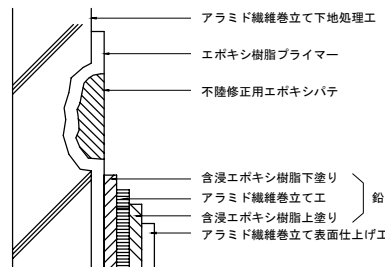
step2:

高所作業車で梁下面を施工 (先にハンチ部付近を施工)

step3:

高所作業車で梁下面を施工 (梁下面を施工)

アラミド繊維シート補強施工断面図



アラミド繊維シート数量表

目付量	シート面積 (m ²)		
	側面	下面 (N)	合計
700g/m ² ×2層	16.2	25.2	41.4

アラミド繊維シートの規格

規格	700g/m ²
シートの厚さ (mm)	0.504
目付量 (g/m ²)	700
引張強度 (N/mm ²)	2350
引張弾性率 (kN/mm ²)	78

数量表（梁一本あたり）

単価項目	数量
アラミド繊維巻立て下地処理工	8.1 m ²
アラミド繊維巻立て下地処理工 (N)	12.6 m ²
アラミド繊維巻立て工 B	8.1 m ²
アラミド繊維巻立て工 B (N)	12.6 m ²
アラミド繊維巻立て表面仕上げ工 B	8.1 m ²
アラミド繊維巻立て表面仕上げ工 B (N)	12.6 m ²
アラミド繊維巻立て定着工 補強鋼板	0.136 t
アラミド繊維巻立て定着工 アンカー	78 本

- （注記）
- 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
 - 現地調査の上で施工すること。また、現況寸法を確認し詳細を決定すること。
 - 現地確認の結果、ひび割れ幅0.20mm以上のものについては、ひび割れ注入を行うこと。
 - 各施工は、結露や水分の付着がないことを確認した上、行うこと。また気温5℃以下、雨天等湿度85%以上の場合は施工してはならない。
 - 不陸修正材の使用量は、下地状況を確認の上、決定すること。
 - コーナー部に鉛直方向継手を設けないこと。
 - 継手長さは200mmとし、重ね継手は1枚毎に千鳥配置とする。
 - 重ね継手には段差が生じるが、パテ及びシート接着剤等すり付ける。
 - 鋼材及びアンカーボルト（既設下部工かぶりまで及びナット類）は溶融亜鉛メッキを施すこと。（鋼材：HDZ177、アンカーボルト、ナット類：HDZ149）
 - 鋼板定着用アンカーが既設鋼材と干渉する場合は避けて設置すること。この時、定着鋼板あたりのアンカー本数は同等とすること。
 - アンカーボルトネジ切り部の溶融亜鉛メッキを施すものとする。

図面の種類	浜野橋（下り線）P2橋脚 補強詳細図（その2）
縮尺	図示
図面番号	/
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所

1

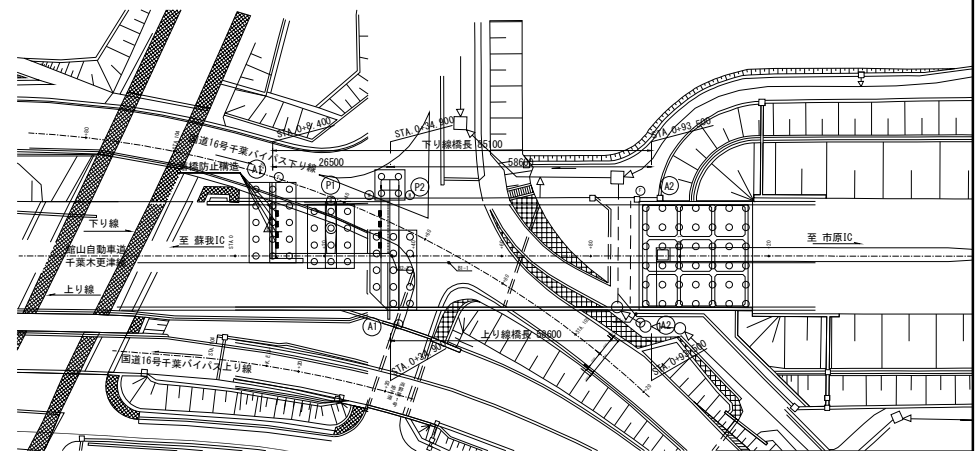


(1-1)



工 種	項 目	区分・種別	単位	数 量	備 考
落橋防止構造	縦型緩衝ピン	500kN型	箇所	4	下り線A1橋台

114



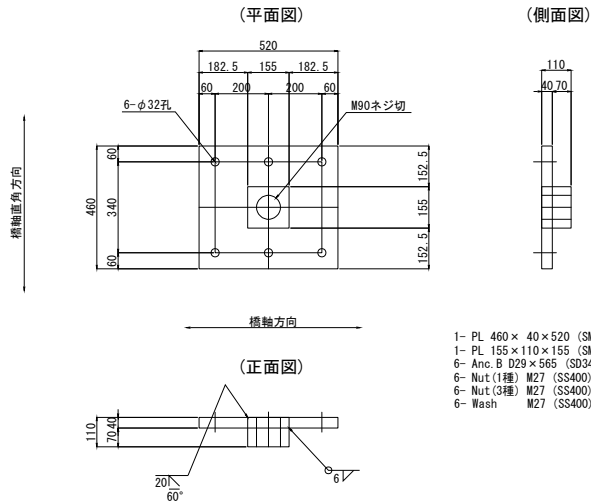
1. 本図面は建設当時の竣工図から既設配筋図等を復元し作図を行っている。
2. 施工に際しては、現地計測を実施して既設構造法等を再確認すること。
3. アンカーボルト孔位置は現場実測後に決定すること。
4. コンクリート削孔は鉄筋探索等を行い、既設鉄筋等を切断しないように留意すること。

釜山自動車道 豊成高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浜野橋（下り線） A1橋台 落橋防止構造 配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 営 管 理 事 務 所		

上部エブラケット詳細図

S=1:20

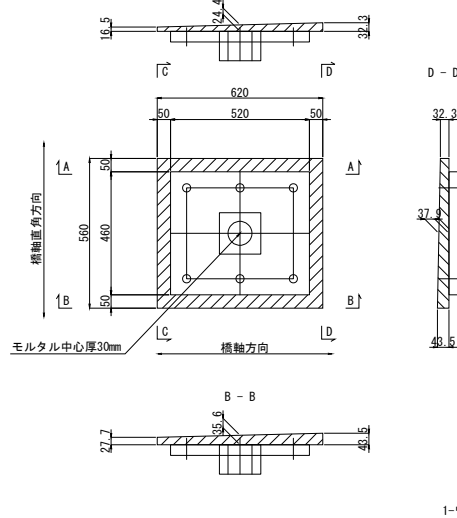
（製作数：1×4=4）



上部工台座調整モルタル詳細図

S=1:20

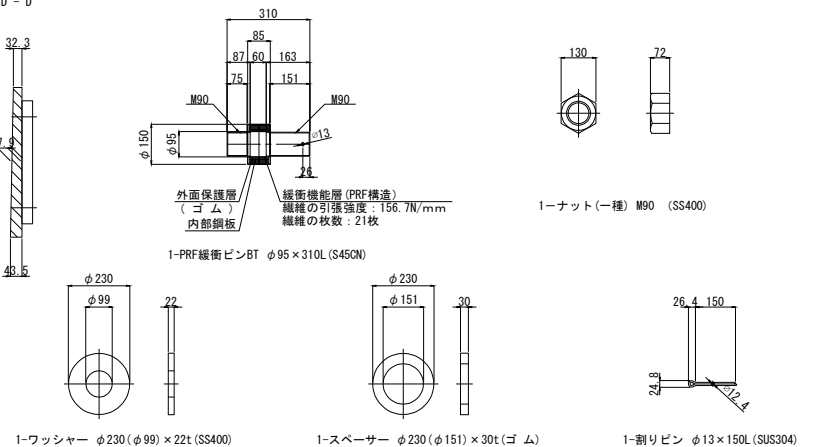
（箇所数：1×4=4）



縦型緩衝ピン詳細図（参考図）

S=1:20

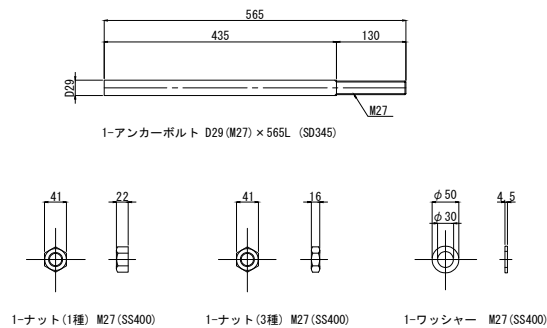
（製作数：1×4=4）



アンカーボルト（上部工用）詳細図

S=1:10

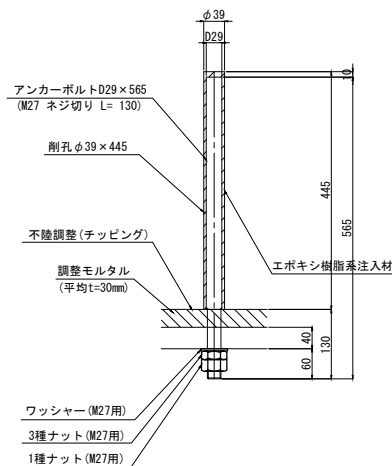
（製作数：6×4=24）



アンカーボルト（上部工用）取付詳細図

S=1:10

（箇所数：6×4=24）



※アンカーボルトネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

注記)

- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
- 縦型緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
- 縦型緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。なお、緩衝部は繊維積層ゴム同等以上とする。
- 施工にあたっては事前に鉄筋探索を行い、鉄筋を切断しない。
- エポキシ樹脂注入時には、漏れない様に周囲にシール材を施すものとする。
- コンクリート削孔・取壊しの粉塵など、施工時の周辺環境対策を施すこと。
- 鋼材は、特記事項を除き溶融亜鉛めっきとする。（付着量：JIS H8641）
素材厚さ t=6.0mm以上の鋼材 付着量 = HDZT77
素材厚さ t=3.2mm未満の鋼材及びパイプ、ボルトナット類 付着量 = HDZT49
- 鋼製部材とコンクリートの接触面は、チップングによる表面処理を行うこと。

館山自動車道 豊成高架橋耐震補強工事				
図面の種類		浜野橋（下り線） A1橋台 落橋防止構造 構造図（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	/	
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所			

浜野橋（下り線）A1橋台 落橋防止構造 構造図(その2)

9 / 22

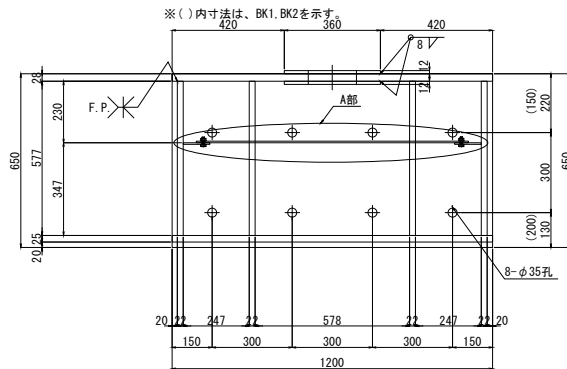
(A1橋台 A-480KN・φ95)

下部エブラケット詳細図

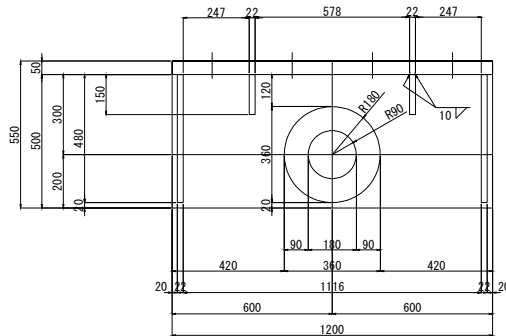
S=1:20

(製作数：1×4=4)

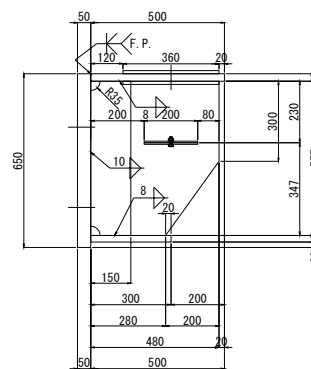
(正面図)



(平面図)



(側面図)

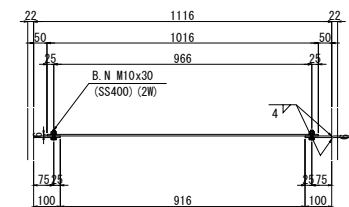


- 1- Base PL 650×50×1200 (SM490C)
- 1- Flg PL 500×28×1200 (SM490B)
- 2- Cov PL 360×12×360 (SM490A) (Net:59%)
- 2- Rib PL 480×22×577 (SM490A) (Net:90%)
- 2- Rib PL 150×22×577 (SM490A)
- 1- Flg PL 300×25×1200 (SM490A)
- 2- PL 100×6×200 (SM400A)
- 1- PL 200×6×1016 (SM400A)
- 2- B.N M10×30 (SS400) (2W)
- 8- Anc. B D32×600 (SD345)
- 9- Nut (1種) M30 (SS400)
- 8- Nut (3種) M30 (SS400)
- 8- Wash M30 (SS400)

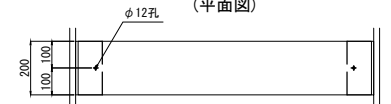
A部詳細図

S=1:20

(正面図)

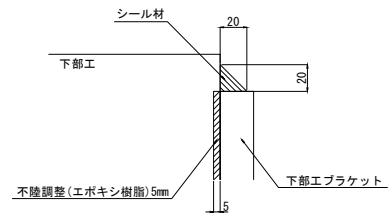


(平面図)



不陸調整・シール材詳細

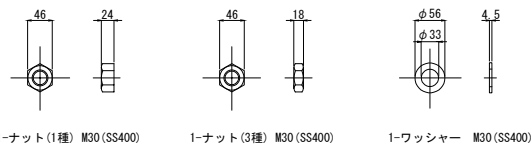
S=1:4



アンカーボルト(下部工用)詳細図

S=1:10

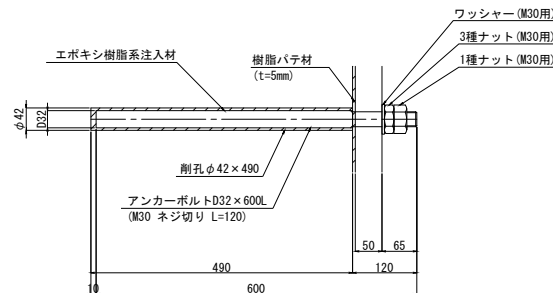
(製作数：8x4=32)



アンカーボルト(下部工用)取付詳細図

S=1:10

(箇所数：8×4=32)

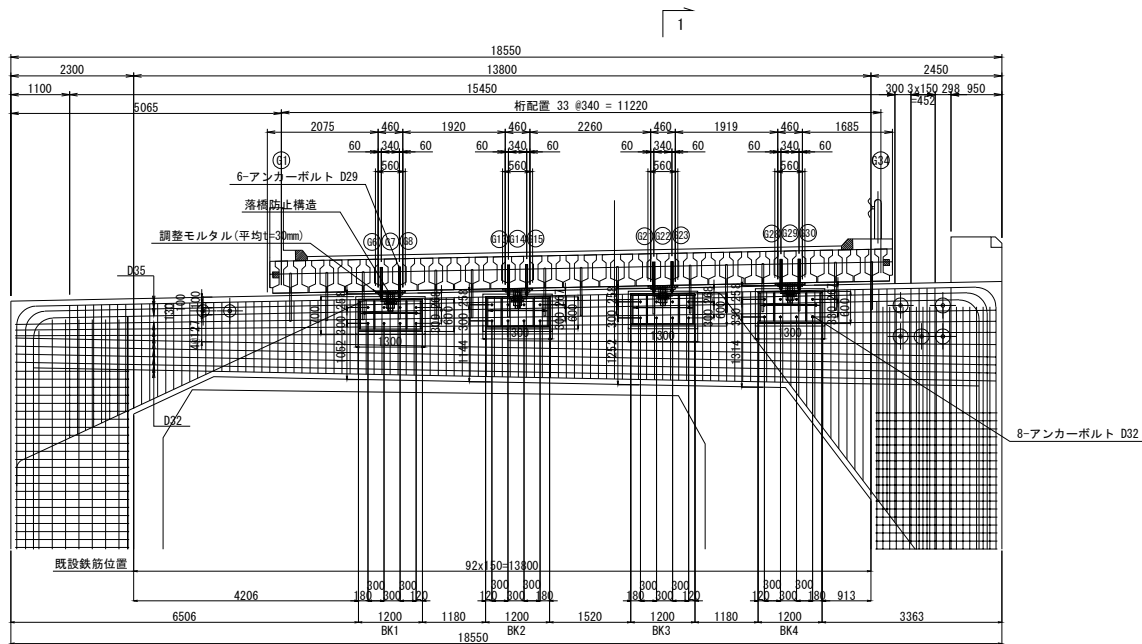


注記)

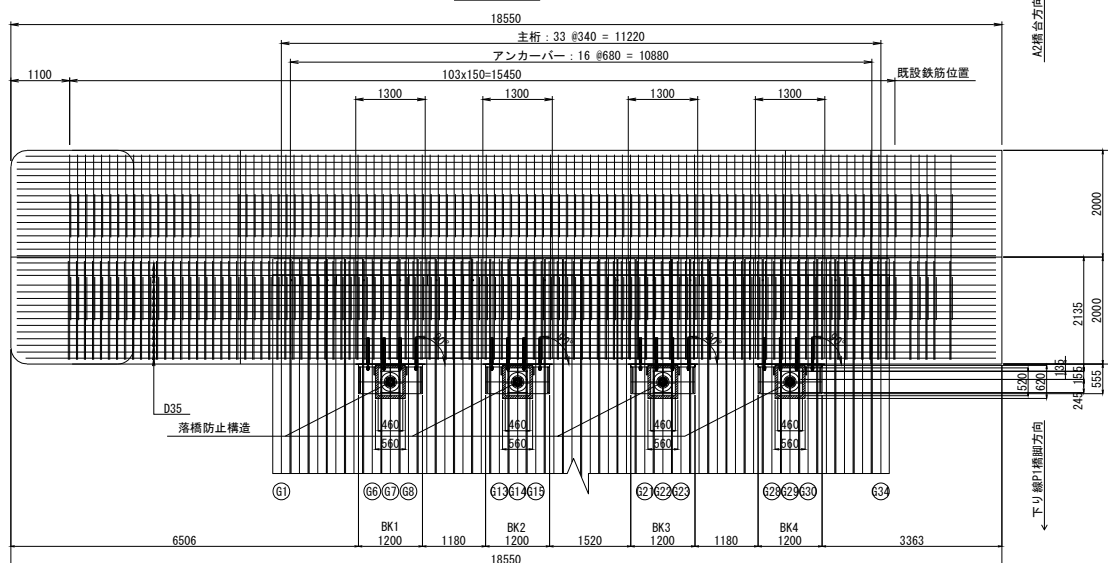
- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
- 縦型緩衝ビンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
- 縦型緩衝ビンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。なお、緩衝部は縦横積層ゴム同等以上とする。
- 施工にあたっては事前に鉄筋探索を行い、鉄筋を切断しないこと。
- エポキシ樹脂注入時には、漏れない様に周囲にシール材を施すものとする。
- コンクリート削孔・取壊しの粉塵など、施工時の周辺環境対策を施すこと。
- 鋼材は、全て溶融亜鉛めっきとする。(付着量：JIS H8641) 素材厚さ t=6.0mm以上の鋼材 付着量 = HDZ777 素材厚さ t=3.2mm未満の鋼材及びパイプ、ボルトナット類 付着量 = HDZ749
- 鋼製部材とコンクリートの接触面は、チャッピングによる表面処理を行うこと。
- 「F.P.」の表記のある箇所は完全溶込み溶接を用いる。
- アンカーボルトネジ切り部のみ溶融亜鉛メッキを施すものとする。
- アンカーボルトの位置を外側へ移動する場合は応力計算は不要とする。なお、変更する際は必ず監督員と協議の上、最終決定すること。

館山自動車道 豊成高架橋耐震補強工事				
図面の種類		浜野橋（下り線） A1橋台 落橋防止構造 構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/	
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所			

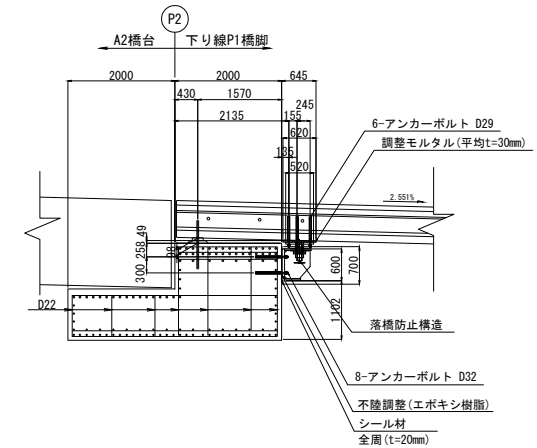
正面图 S=1:100



平面图 S=1:100



側面図 S=1:100
(1-1)

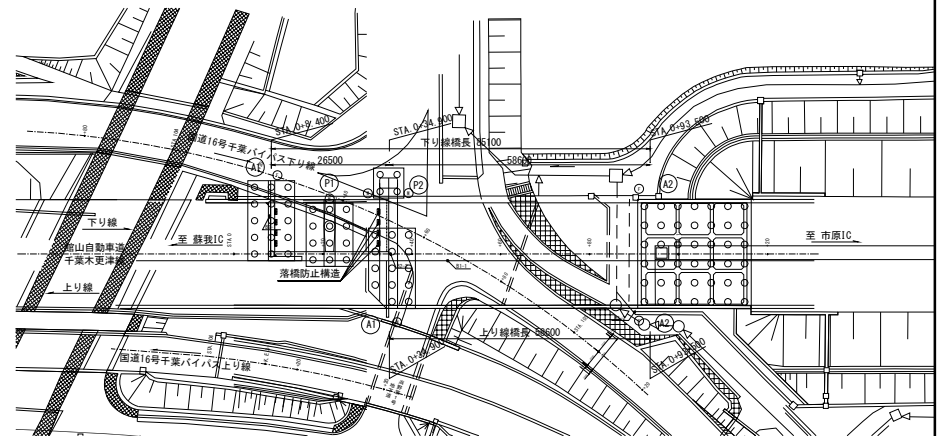


配置数量

工 種	項 目	区分・種別	単位	数 量	備 考
落橋防止構造	縦型緩衝ピン	500kN型	箇所	4	下り線P2橋脚

設計条件	設計値	備 考
設計荷重	1920 kN	1.5Rd
	480 kN	1箇所あたり

全体位置図 S=1:1200



注記)

1. 本図面は建設当時の竣工図から既設配筋図等を復元し作図を行っている。
2. 施工に際しては、現地計測を実施して既設構造寸法等を再確認すること。
3. アンカーボルト孔位置は現場実測後に決定すること。
4. コンクリート削孔は鉄筋探索等を行い、既設鉄筋等を切断しないように留意すること。

館山自動車道 豊成高笑橋耐震補強工事			
図面の種類	浜野橋（下り線） P2橋脚 落橋防止構造 配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 田 管 理 事 務 所		

浜野橋（下り線）P2橋脚 落橋防止構造 構造図（その1）

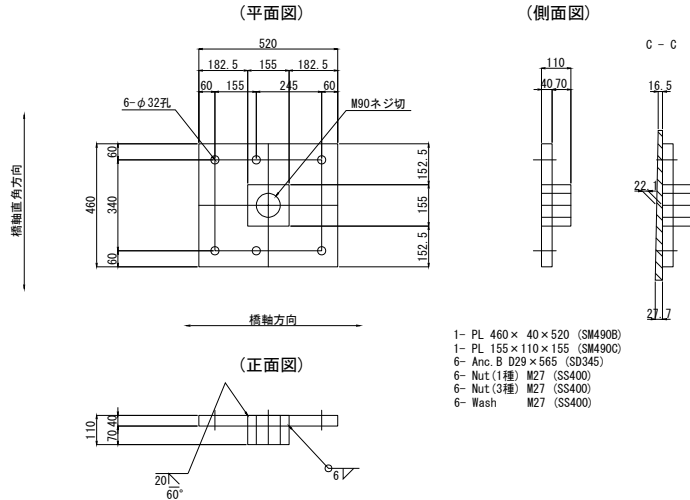
（ P2橋脚 A-480KN・φ95 ）

11 / 22

上部エブラケット詳細図

S=1:20

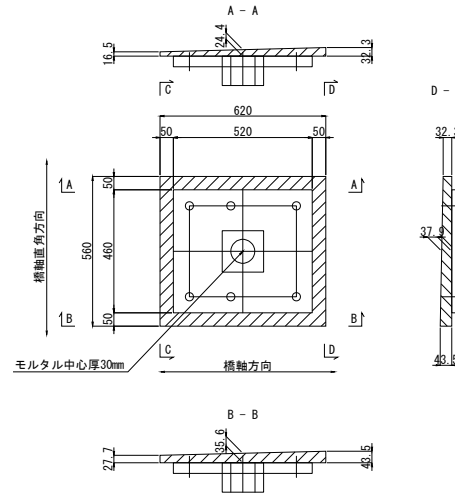
（製作数：1×4=4）



上部工台座調整モルタル詳細図

S=1:20

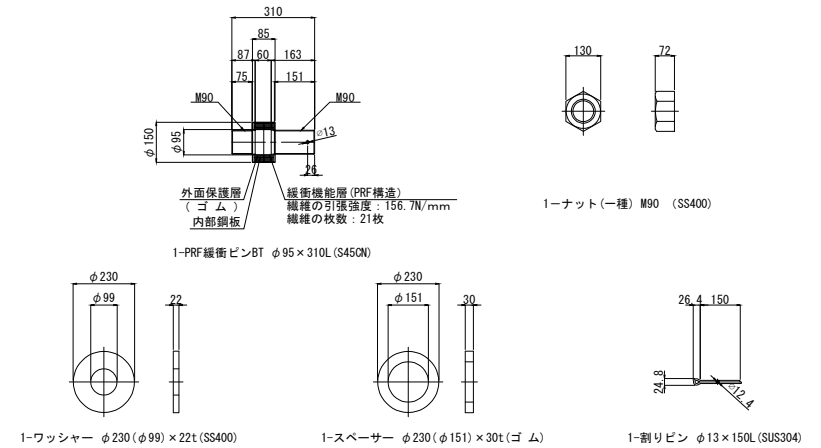
（箇所数：1×4=4）



縦型緩衝ピン詳細図（参考図）

S=1:20

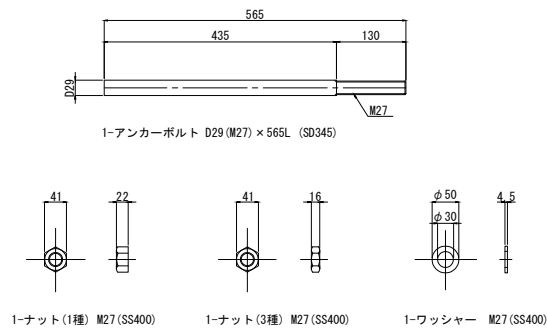
（製作数：1×4=4）



アンカーボルト（上部工用）詳細図

S=1:10

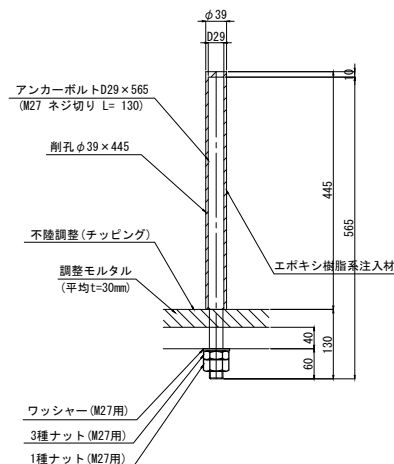
（製作数：6×4=24）



アンカーボルト（上部工用）取付詳細図

S=1:10

（箇所数：6×4=24）



※アンカーボルトネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

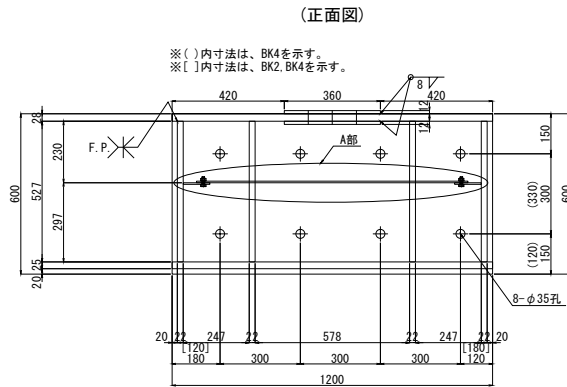
注記

- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
- 縦型緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
- 縦型緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。なお、緩衝部は繊維積層ゴム同等以上とする。
- 施工にあたっては事前に鉄筋探索を行い、鉄筋を切断しない。
- エポキシ樹脂注入時には、漏れない様に周囲にシーリング材を施すものとする。
- コンクリート削孔・取壊しの粉塵など、施工時の周辺環境対策を施すこと。
- 鋼材は、特記事項を除き溶融亜鉛めっきとする。（付着量：JIS H8641）
 素材厚さ t=6.0mm以上の鋼材 付着量 = HDZT77
 素材厚さ t=3.2mm未満の鋼材及びパイプ、ボルトナット類 付着量 = HDZT49
- 鋼製部材とコンクリートの接触面は、チップングによる表面処理を行うこと。

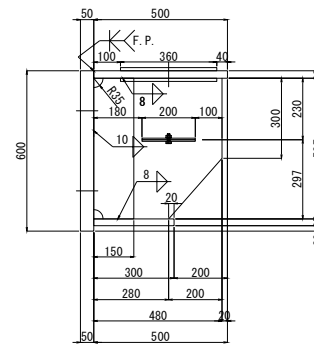
館山自動車道 豊成高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浜野橋（下り線） P2橋脚 落橋防止構造 構造図（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 課 所		

（ P2橋脚 A-480KN・φ95 ）

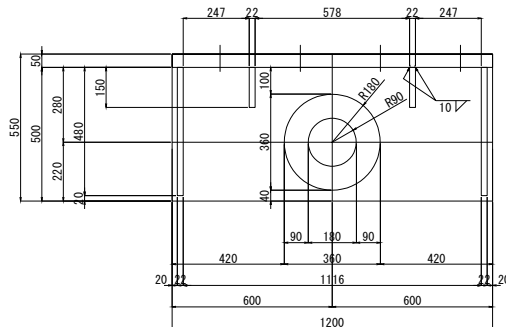
下部エブラケット詳細図 S=1:20
(製作数：1×4=4)



(側面図)



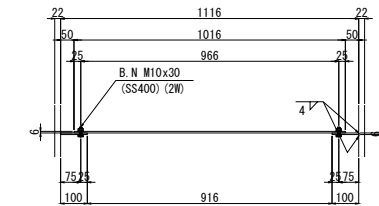
(平面図)



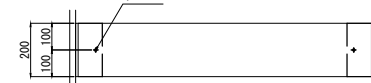
- 1- Base PL 600×50×1200 (SM490C)
- 1- Flg PL 500×28×1200 (SM490B)
- 2- Cov PL 360×12×360 (SM490A) (Net:59%)
- 2- Rib PL 480×22×527 (SM490A) (Net:91%)
- 2- Rib PL 150×22×527 (SM490A)
- 1- Flg PL 300×25×1200 (SM490A)
- 2- PL 100×6×200 (SM400A)
- 1- PL 200×6×1016 (SM400A)
- 2- B.N M10×30 (SS400) (2W)
- 8- Arc. B D32×600 (SD345)
- 8- Nut (1種) M30 (SS400)
- 8- Nut (3種) M30 (SS400)
- 8- Wash M30 (SS400)

A部詳細図 S=1:20

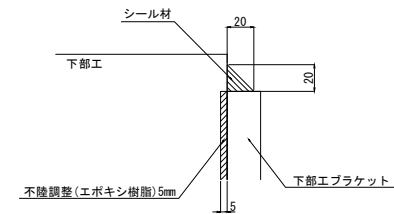
(正面図)



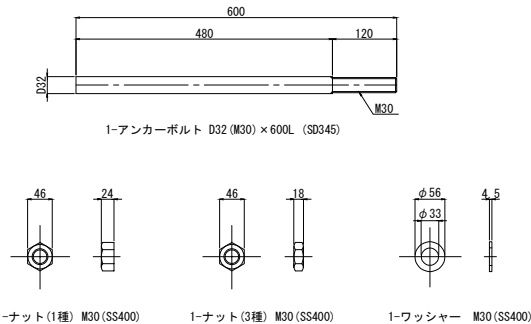
(平面図)



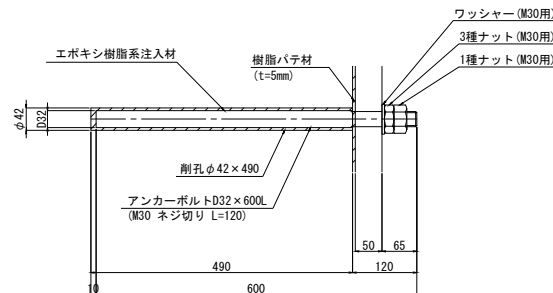
不陸調整・シール材詳細 S=1:4



アンカーボルト（下部工用）詳細図 S=1:10
(製作数：8×4=32)



アンカーボルト（下部工用）取付詳細図 S=1:10
(箇所数：8×4=32)



注記

- 1) 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
- 2) 縦型縦衝ビンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
- 3) 縦型縦衝ビンの縦衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて縦衝部の応力計算を行うこと。
なお、縦衝部は縦衝部間ゴム同等以上とする。
- 4) 施工にあたっては事前に鉄筋探索を行い、鉄筋を切断しないこと。
- 5) エポキシ樹脂注入時には、漏れない様に周囲にシール材を施すものとする。
- 6) コンクリート削孔・取壊しの粉塵など、施工時の周辺環境対策を施すこと。
- 7) 鋼材は、全て溶融亜鉛めっきとする。(付着量：JIS H8641)
素材厚さ t=6.0mm以上の鋼材 付着量 = HDZ777
素材厚さ t=3.2mm未満の鋼材及びパイプ、ボルトナット類 付着量 = HDZ749
- 8) 鋼製部材とコンクリートの接触面は、チャッピングによる表面処理を行うこと。
- 9) 「F.P.」の表記のある箇所は完全溶込み溶接を用いる。
- 10) アンカーボルトネジ切り部のみ溶融亜鉛メッキを施すものとする。
- 11) アンカーボルトの位置を外側へ移動する場合は応力計算は不要とする。
なお、変更する際は必ず監督員と協議の上、最終決定すること。

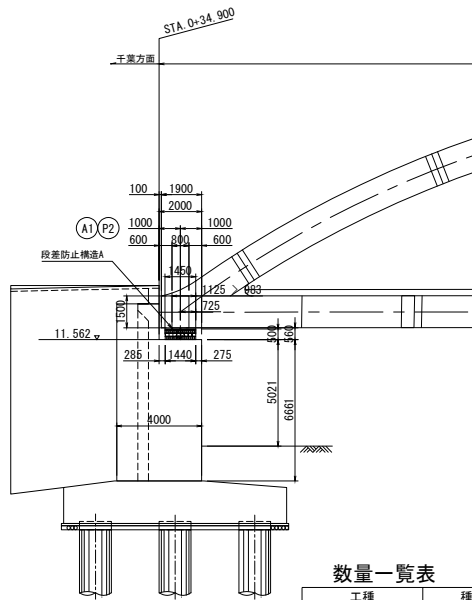
館山自動車道 豊成高架橋耐震補強工事				
図面の種類	浜野橋（下り線） P2橋脚 落橋防止構造 構造図（その2）	図示	図面番号	/
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所			

浜野橋（上下線）段差防止構造 構造図(参考図)(その1)

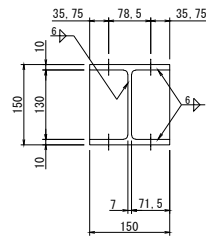
緩衝材 S=1:30

13 / 22

側面図 S=1:250



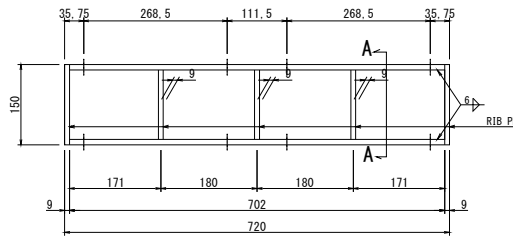
A-A断面



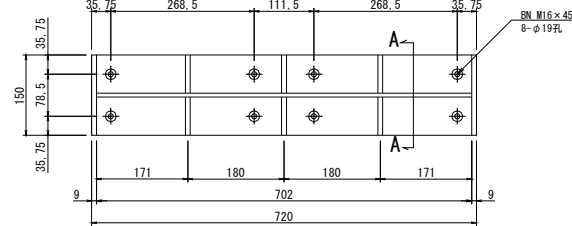
材料表 (1本当り)
1-H 150x150x7/10x702
2-RIB PL 150x9x150
6-RIB PL 71.5x9x130

サンドル材 S=1:10

側面図

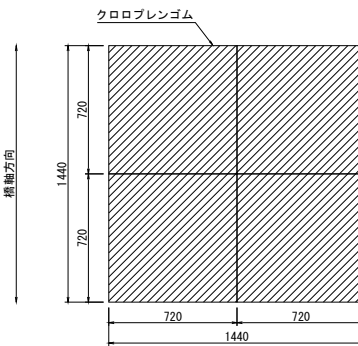


平面図

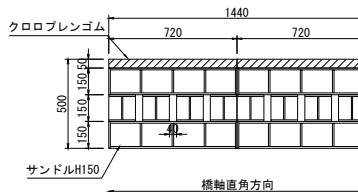


段差防止構造A S=1:30
(設置箇所: 1箇所 (G2))

平面図



正面図

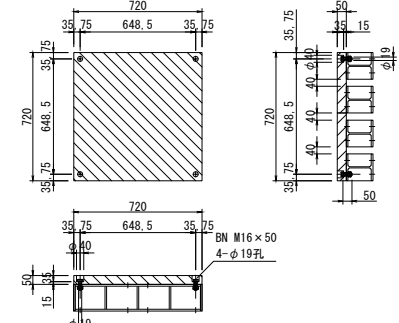


材料表 (1箇所当り)
48-サンドル 150x150x720 (SM400)
64-BN M16x45 (2-W, 1-緩み止めナット) (SS400)
※4-緩衝材 720x50x720
16-BN M16x50 (2-W, 1-緩み止めナット) (SS400)

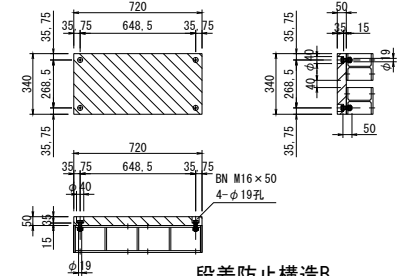
注記
・本図面は竣工図面および点検測量に基づき作成している。
・施工前には事前に現地計測等を行い、現況との整合確認を行うこと。
・段差防止構造は標準図に基づいて作図しているため、施工前に寸法等再度確認すること。
・部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映すること。
・※印以外の部材は、全て標準型部材と処理する。
（付帯量はJIS H6641 HDZ77とする。但し、3.2mm未満の鋼材及び普通ボルト等はHDZ40とする。）
・緩衝材の規格はクロロレンゴム、硬度55° ±5° 程度とする。

緩衝材 S=1:30

G2側

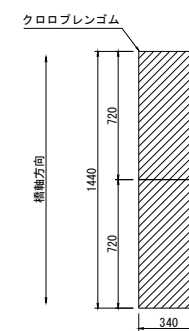


G1, G3側

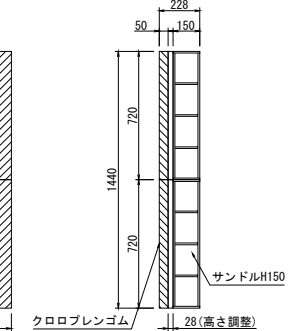


段差防止構造B S=1:30
(設置箇所: 2箇所 (G1, G3))

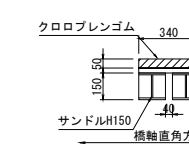
平面図



断面図

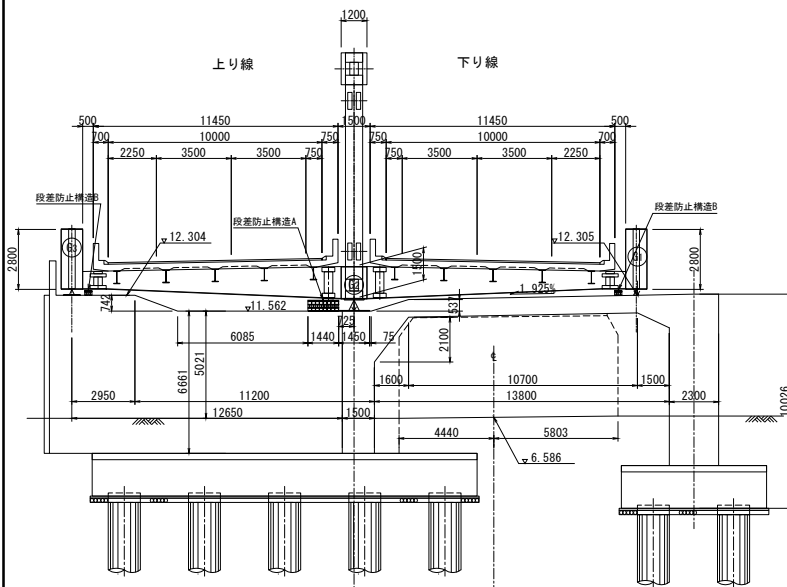


正面図



材料表 (1箇所当り)
4-サンドル 150x150x720 (SM400)
2-PL 340x28x720 (SS400)
※2-緩衝材 340x50x720
8-BN M16x80 (2-W, 1-緩み止めナット) (SS400)

下部工正面図 S=1:250
(上り線A1橋台/下り線P2橋脚)

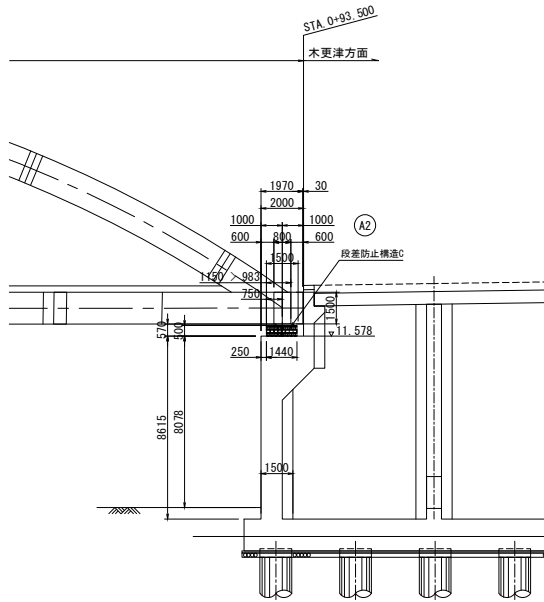


浜野橋（上下線）段差防止構造 構造図(参考図)（その2）

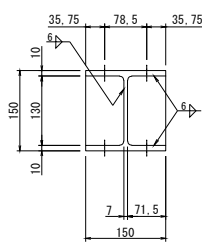
緩衝材 S=1:30

14 / 22

側面図 S=1:250



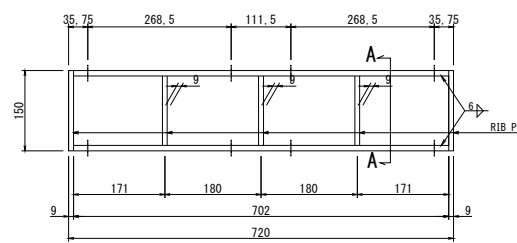
A-A断面



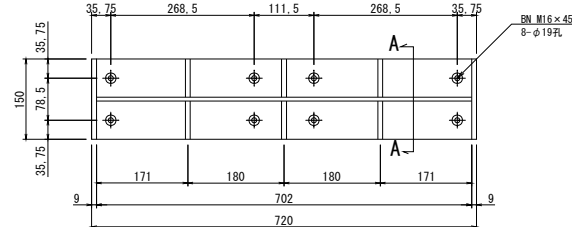
材料表（1本当り）
1-H 150x150x7/10x702
2-RIB PL 150x9x150
6-RIB PL 71.5x9x130

サンドル材 S=1:10

側面図



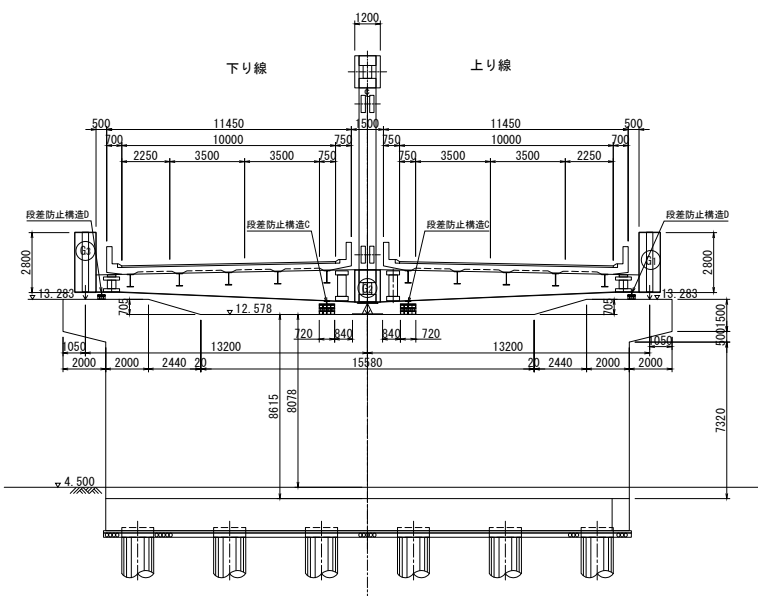
平面図



数量一覧表

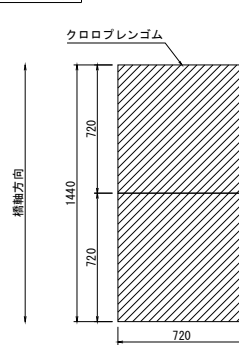
工種	種別	仕様	単位	数量	備考
段差防止構造D	G1桁設置	2列1段×2	個	4	H150サンドル材
段差防止構造C	G2桁設置	4列3段×2	個	24	H150サンドル材
段差防止構造C	G2桁設置	4列3段×2	個	24	H150サンドル材
段差防止構造D	G3桁設置	2列1段×2	個	4	H150サンドル材

下部工正面図 S=1:250
（A2橋台）

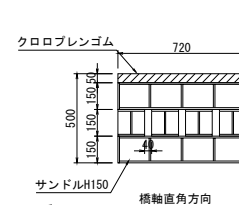


段差防止構造C S=1:30
（設置箇所：2箇所（G2））

平面図

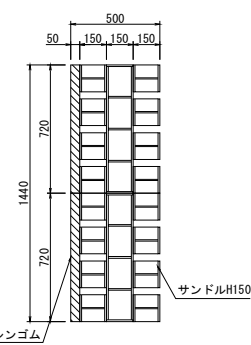


正面図

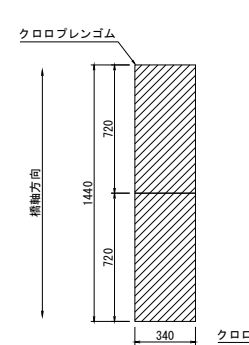


材料表（1箇所当り）
24-サンドル 150x150x720 (SM400)
32-BN M16x45 (2-W, 1-緩み止めナット) (SS400)
※2-緩衝材 720x50x720
8-BN M16x50 (2-W, 1-緩み止めナット) (SS400)

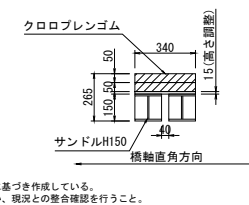
断面図



平面図

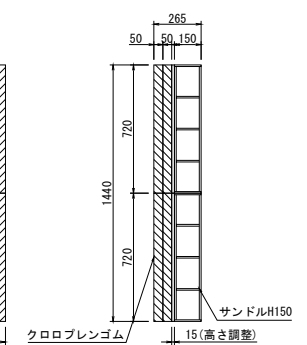


正面図



段差防止構造D S=1:30
（設置箇所：2箇所（G1, G3））

断面図



材料表（1箇所当り）
4-サンドル 150x150x720 (SM400)
2-PL 340x15x720 (SS400)
※4-緩衝材 340x50x720
8-BN M16x120 (2-W, 1-緩み止めナット) (SS400)

注記
・本図面は竣工図面および点検測量に基づき作成している。
・施工前には事前に現地計測等を行い、現況との整合確認を行うこと。
・段差防止構造は標準図に基づいて作成しているため、施工前に寸法等再度確認すること。
・部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映すること。
・※切込みの部材は、全て溶接継ぎメッキ処理とする。
（付帯量はJIS H8641 HDZ177とする。但し、3.2mm未満の鋼材及び普通ボルト等はHDZ140とする。）
・緩衝材の規格はクロロレンゴム、硬度55°±5°程度とする。

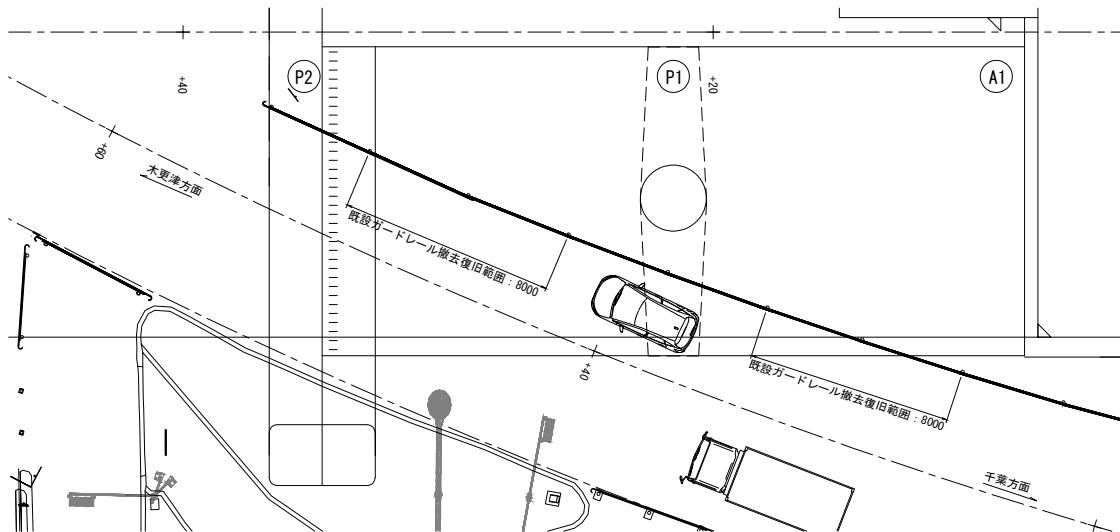
図面の種類	浜野橋（上下線） 段差防止構造 構造図(参考図)（その2）
縮尺	図示
図面番号	/
設計会社名	NI X JAPAN 株式会社
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所

浜野橋（下り線）A1橋台 施工計画図(参考図)

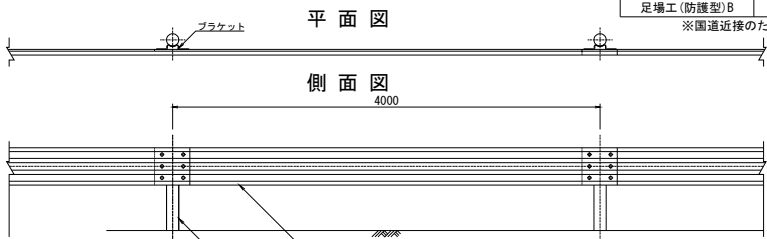
(資機材の搬入搬出、杵組足場の設置)

施工要領図 S=1:400

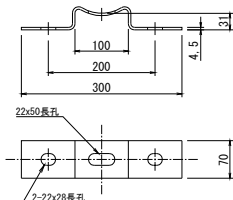
施工平面図 S=1:200



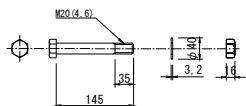
復旧ガードレール詳細図 S=1:50



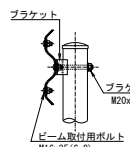
ブラケット S=1:10



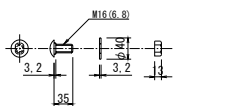
ブラケット取付用ボルト S=1:10



取付詳細図 S=1:25



ビーム取付用ボルト S=1:10

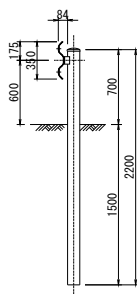


数量一覧表

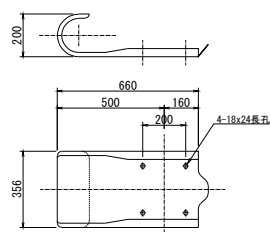
項目名称	区 分	単位	数量	備考
防護柵撤去設置工	ガードレール Gr-B-4E	m	16.0	率計上項目
仮設防護柵工	A	m	10.0	率計上項目
足場工 (防護型) B		空m ²	93.9	

※国道近接のため防護型にする。

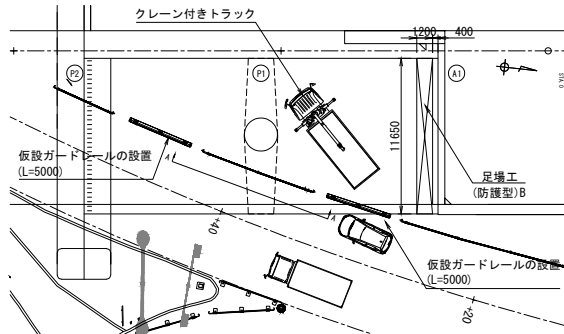
断面図



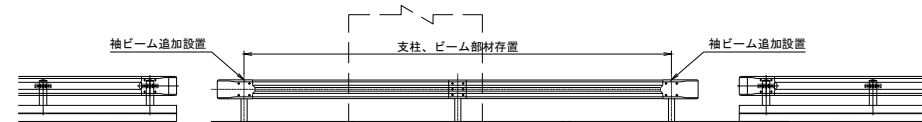
追加袖ビーム詳細図 S=1:25



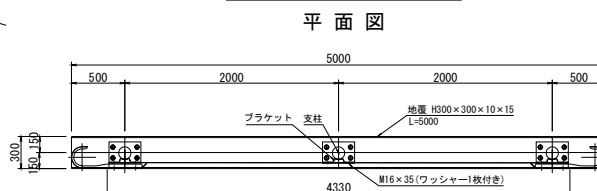
平面図



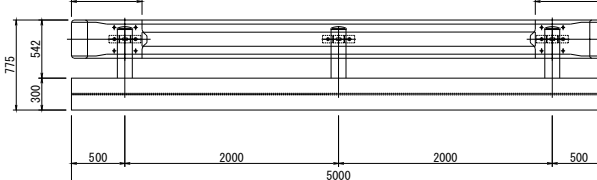
ガードレール配置図 (A - A)



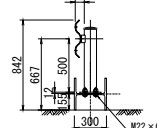
仮設ガードレール詳細図 S=1:50



側面図



断面図



- 注記)
1. 既設ガードレールの諸元は現地状況(路線や支柱間隔)から推定している。施工前には道路管理者と協議し、道路規格や設置するガードレール規格について確認すること。
 2. 既設ガードレールの撤去は交通規制等を行わないで行う計画であるが、必要に応じて交通規制を行うこと。
 3. 既設ガードレールは支柱間隔4mである。そのため支柱を存置させた状態で工事用車両を進入させた場合、衝突等が考えられるため、出入口付近の支柱は撤去する。(出入口とならないP1橋脚前面のGrは存置とする)。
 4. 復旧するガードレールは、既設ガードレールと同等規格を想定している。
 5. 本図は既存の測量平面図を基本としているが、一部平面情報が不足する範囲については、航空写真より再現している。施工前には現地状況を確認すること。

仮設ガードレール部材数量表

部材名	規格	長さ(mm)	員数	質量(kg)	1基数	質量(kg)
主材	H300×300×10×15	5000	1	500	1	500.00
主ビーム	Gr-B-2B	4330	1	45.5	1	45.50
袖ビーム	Gr-B-2B	660	1	6.56	2	13.12
支柱	φ114.3×4.5	600	1	7.6	3	22.80
ベースプレート	PL12×200×300		1	5.65	3	16.95
ブラケット	4.5×70×300		1	0.93	3	2.79
ブラケット取付ボルト	BN M20×145		1	0.53	3	1.59
ビーム取付ボルト	BN M16×35		1	0.12	14	1.68
支柱取付ボルト	BN M22×65		1	0.35	12	4.20
				合計		609.00

追加袖ビーム部材数量表

部材名	規格	長さ(mm)	員数	質量(kg)	箇所	質量(kg)
袖ビーム	Gr-B-2B	660	1	6.56	4	26.24
ビーム取付ボルト	BN M16×35		4	0.12	4	1.92
				合計		28.16

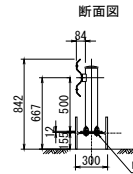
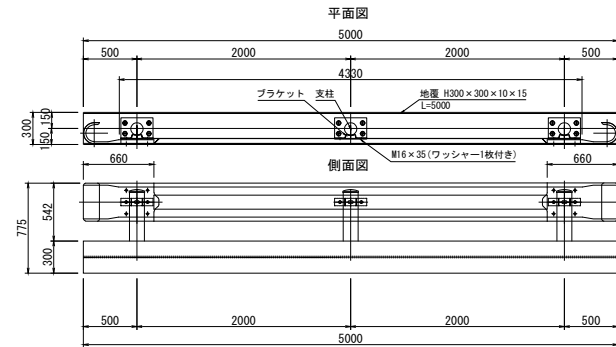
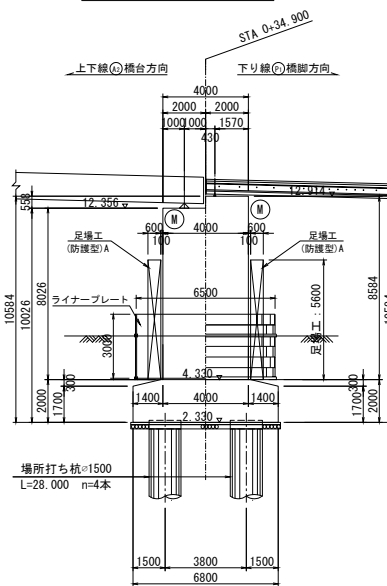
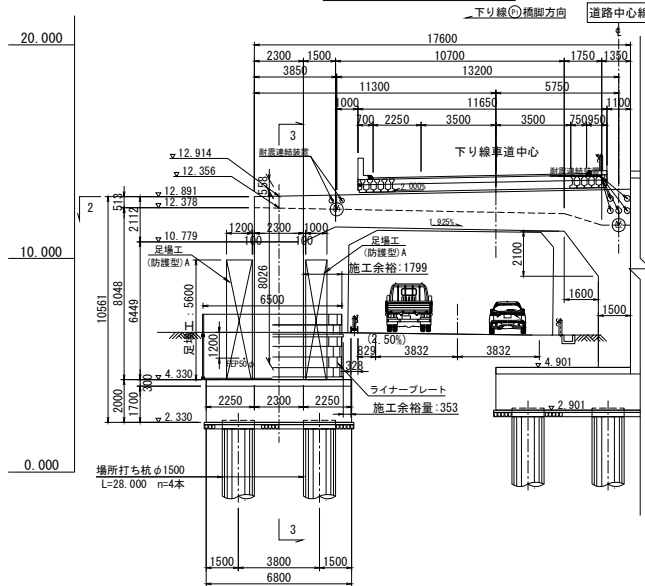
館山自動車道 造成高架橋耐震補強工事				
図面の種類	浜野橋（下り線） A1橋台 施工計画図（参考図）			
縮 尺	図 示	図面番号	/	
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所			

(柱補強時)

仮設ガードレール詳細図 S=1:50

正 面 图 (1 - 1)

断面图 (3-3)



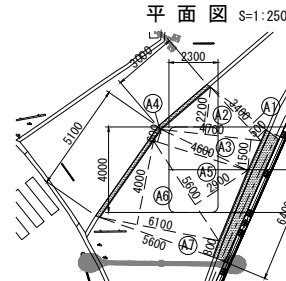
仮設ガードレール部材数量表

部材名	規格	長さ (mm)	員数	質量 (kg)	1基数	質量 (kg)
主材	H300×300×10×15	5000	1	500	1	500.00
主ビーム	Gr-B-2B	4330	1	45.5	1	45.50
横ビーム	Gr-B-2B	860	1	6.56	2	13.12
支柱	φ114.3×4.5	600	1	7.6	3	22.80
ベースプレート	PL12×200×300		1	5.65	3	16.95
ブラケット	4.5×70×300		1	0.93	3	2.79
ブラケット取付ボルト	BM M20×145		1	0.53	3	1.59
ビーム取付ボルト	BM M16×35		1	0.12	14	1.68
支柱取付ボルト	BM M22×65		1	0.35	12	4.20
					合計	609.00

数量一覽表

項目名称	区 分	単位	数量	備考
緑化工	工事製コンクリート緑石	m ²	8.1	単料上項目
コンクリートシール工	t=100mm	m ²	24.3	単料上項目
構造等取除工	コンクリート構造物取除し(TypeA)	m ³	4.1	単料上項目
	アスファルト舗装板取除し(TypeA)	m ³	3.5	単料上項目
仮設防護柵工	A	m	20.0	単料上項目
仮設復旧工	A	m ²	3.5	単料上項目
し尿復旧		m	6.4	単料上項目
路盤撤去復旧工		m ³	3.6	単料上項目
足場工(防壊型)A		空 ³	61.3	

アイランド撤去復旧図



求積表

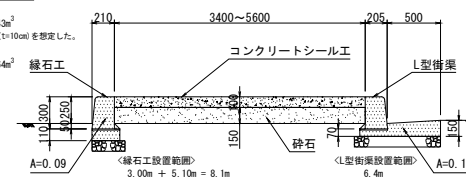
No.	底辺	高さ	倍面積	面積
A1	3.40	0.50	1.70	0.5
A2	4.70	2.20	10.34	5.5
A3	4.70	1.50	7.05	3.5
A4	4.60	0.60	2.76	1.5
A5	5.60	2.90	16.24	8.5
A6	6.10	4.00	24.40	12.5
A7	5.60	0.80	4.48	9.5
小計				33.5
(既設橋脚躯体控除)				
控除	2.30	4.00		9.5
計		ΣA - 控除		24.0

<コンクリートシール工>
 $24.29\text{m}^2 \times 0.10\text{m} = 2.43\text{m}^3$
 ※現況コンクリートシール(t=10cm)を想定した。
 <路盤撤去復旧工>
 $24.29\text{m}^2 \times 0.15\text{m} = 3.64\text{m}^3$

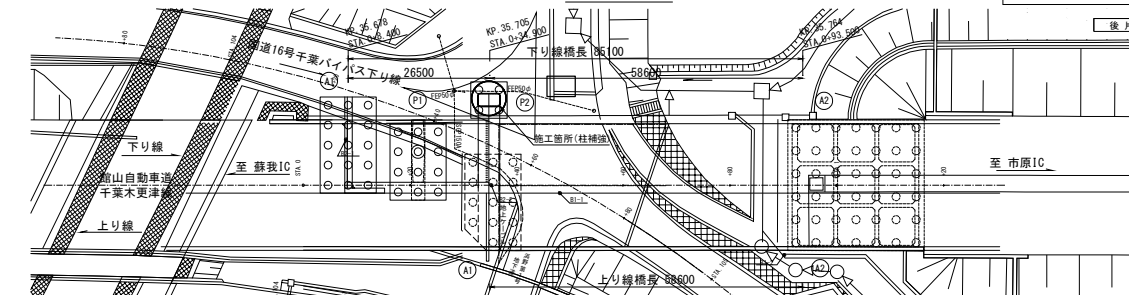
舖裝構成表(復旧時)

歩道部		
名称	仕上厚	材名、規格
表層	3cm	細粒度アスファルト
路盤	10cm	再生クラッシャーラン RC40
計	13cm	

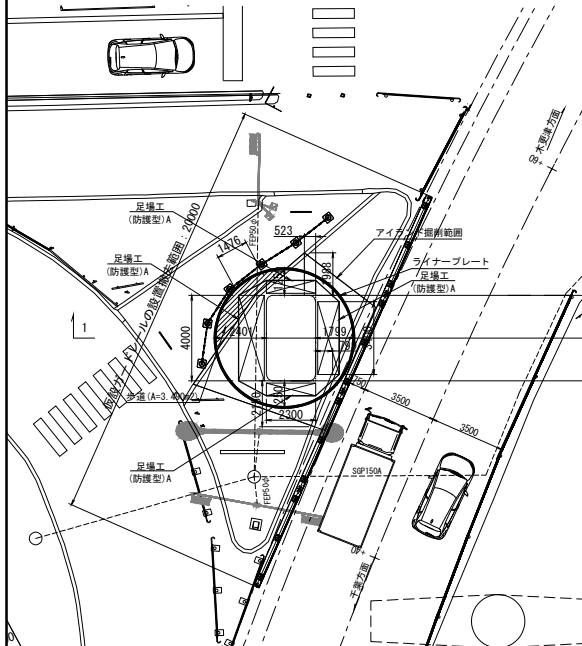
断面図 S=1:50



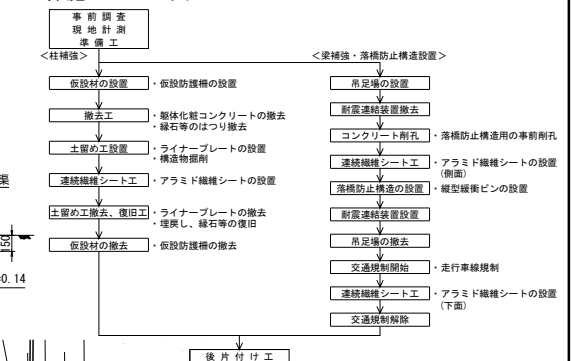
全体位置図 S=1:1000



平面图 (2-2)



全体施工フロー図



注記)

- ・本図面は竣工図面および点群測量に基づき作成している。
- ・施工前には事前に現地計測等を行い、現状との整合確認を行うこと。

館山自動車道 豊成高架橋耐震補強工事				
図面の種類	浜野橋（下り線） P2橋脚 施工計画図（参考図）（その1）			
縮 尺	図 示	図面番号	/	
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所			

浜野橋（下り線）P2橋脚 施工計画図(参考図)（その2）

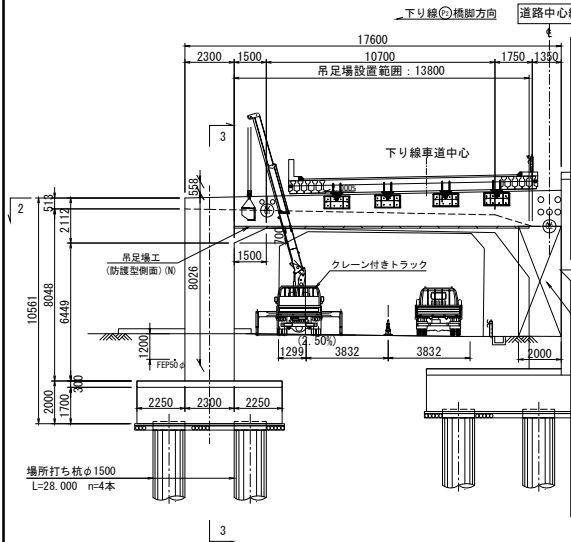
S=1:250

17 / 22

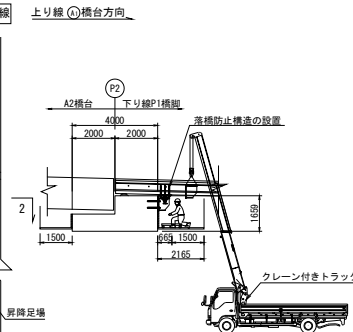
（ 梁補強・落橋防止構造施工時 ）

梁側面施工時

正面図(1-1)



側面図(3-3)



<4t吊クレーン付トラック>

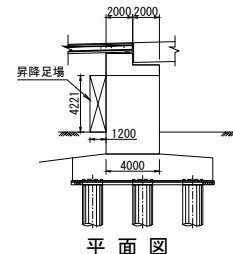
定格総荷重表(最大張出)

作業半径 (m)	ブーム長さ(m)	
2.5	1.73	
3.0	1.43	
3.5	1.23	
4.0	0.98	
5.0	0.73	

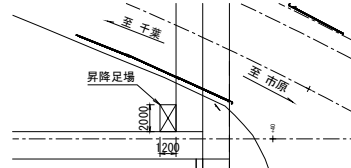
プラットフォーム重量: 0.74t < 0.98t

昇降足場図 S=1:400

側面図

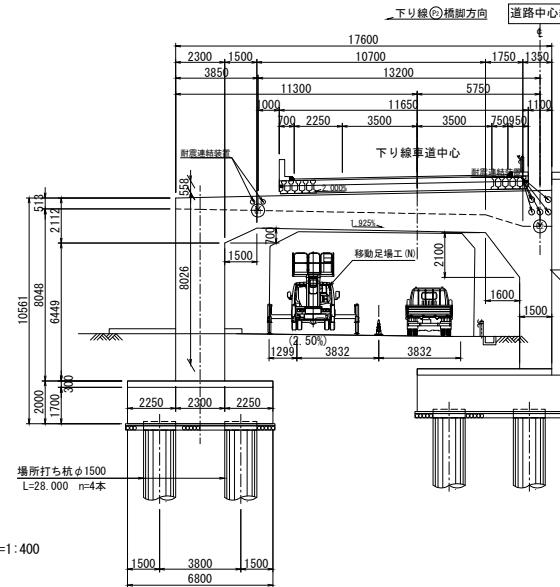


平面図

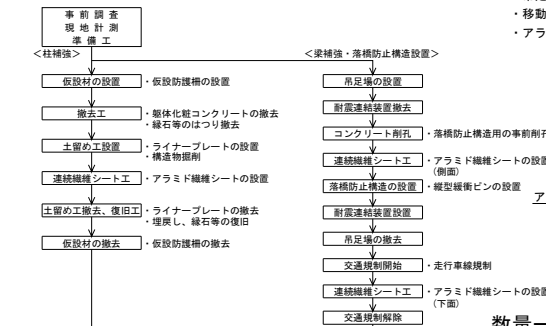


梁下面施工時

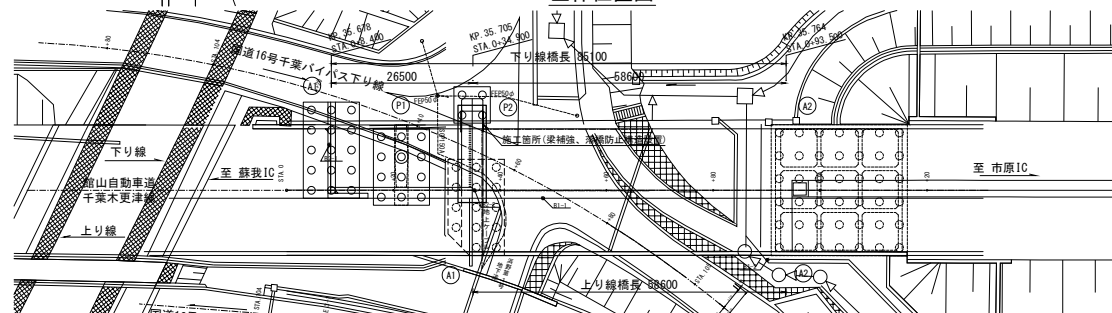
正面図



全体施工フロー図

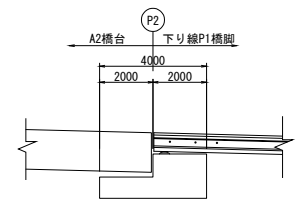


全体位置図 S=1:1000



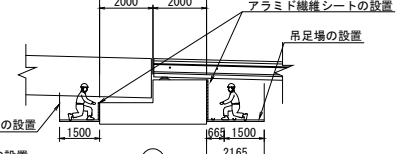
施工手順図 S=1:200

STEP00: 現況



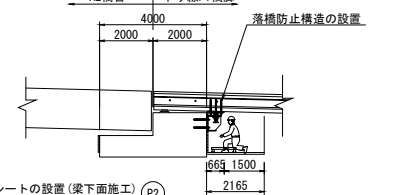
STEP01: アラミド繊維シートの設置(梁側面施工)

- ・吊足場の設置
- ・アンカー削孔
- ・アラミド繊維シートの設置



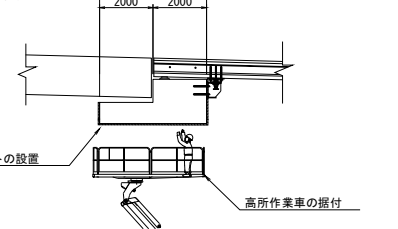
STEP02: 落橋防止構造の設置

- ・落橋防止構造の設置



STEP03: アラミド繊維シートの設置(梁下面施工)

- ・吊足場の撤去
- ・移動足場(高所作業車)による近接
- ・アラミド繊維シートの設置



数量一覧表

項目名称	区分	単位	数量	備考
吊足場工(防護型側面) (N)		m ²	35.1	
昇降足場	枠組足場	空m ²	10.1	

(注記)
・本図面は竣工図面および点検測量に基づき作成している。
・施工前には事前に現地計測等を行い、現況との整合確認を行うこと。

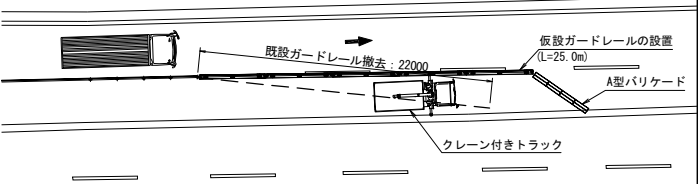
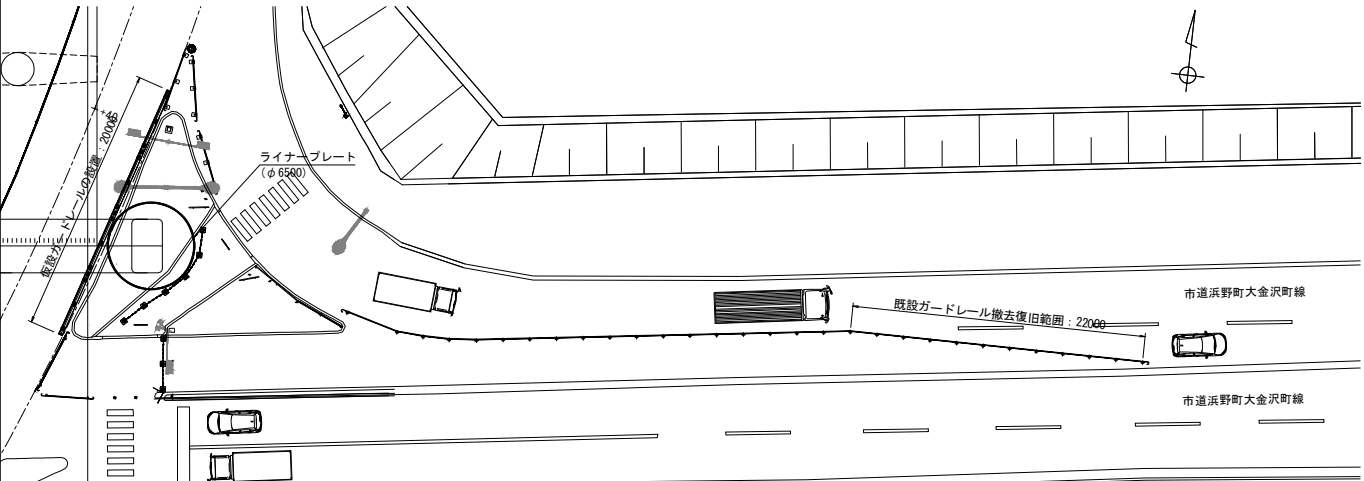
館山自動車道	豊成高梁橋耐震補強工事
図面の種類	浜野橋（下り線）
縮尺	P2橋脚 施工計画図(参考図)（その2）
図示	図面番号 /
設計会社名	NIIX JAPAN 株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原 管理 事務所

(資機材の搬入搬出)

施工ステップ図 S=1:400

ステップ1：交通規制開始、仮設ガードレールの設置、既設ガードレールの撤去

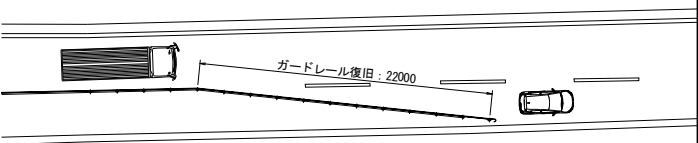
施工平面図 S=1:400



ステップ2：資機材の搬入・搬出



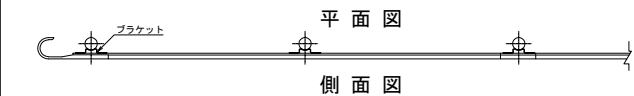
ステップ3：仮設ガードレールの撤去、ガードレールの復旧、交通規制解放



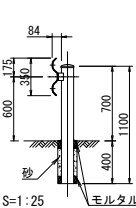
数量一覧表

項目名称	区 分	単位	数量	備考
防護柵撤去設置工	ガードレール Gr-B-2B	m	22.0	率計上項目
仮設防護柵工	A	m	25.0	率計上項目
敷き鉄板	3.0×1.5×22	枚	8	

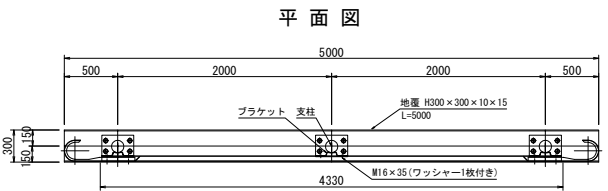
復旧ガードレール詳細図 S=1:50



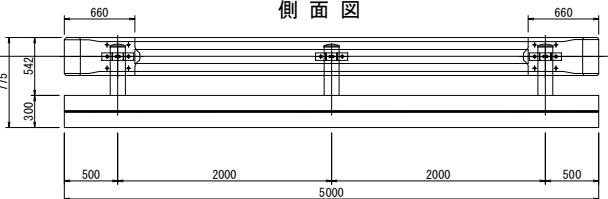
断面図



仮設ガードレール詳細図 S=1:50



側面図

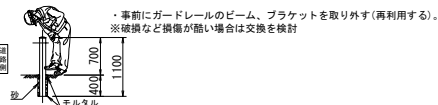


仮設ガードレール部材数量表

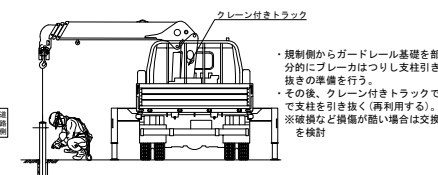
部材名	規格	長さ (mm)	員数	質量 (kg)	1基数	質量 (kg)
主材	H300×300×10×15	5000	1	500	1	500.00
主ビーム	Gr-B-2B	4330	1	45.5	1	45.50
主ビーム	Gr-B-2B	660	1	6.56	2	13.12
支柱	φ114.3×4.5	600	1	7.6	3	22.80
ベースプレート	PL12×200×300		1	5.65	3	16.95
ブラケット	4.5×70×300		1	0.93	3	2.79
ブラケット取付ボルト	BN M20×145		1	0.53	3	1.59
ビーム取付ボルト	BN M16×35		1	0.12	14	1.68
支柱取付ボルト	BN M22×65		1	0.35	12	4.20
				合計		609.00

既設ガードレール撤去手順 S=1:100

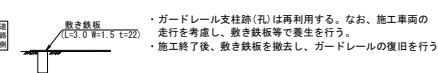
ステップ1：ガードレールのビーム、ブラケットの撤去



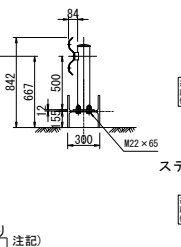
ステップ2：ガードレールの支柱引き抜き



ステップ3：ガードレール跡の養生



断面図

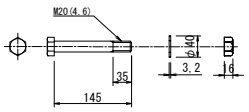


注記

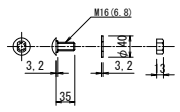
- 既設ガードレールの諸元は現地状況(路線や支柱間隔)から推定している。施工前には道路管理者と協議し、道路規格や設置するガードレール規格について確認すること。
- 仮設ガードレールの延長は下記より想定して算出している。
 - 現地状況を確認し調整を行うこと。
 - 既設ガードレール範囲(22m～5m×5=25m)
- 復旧するガードレールは、既設ガードレールと同等規格を想定している。
- 本図は既存の測量平面図を基本としているが、一部平面情報が不足する範囲については、航空写真より再現している。施工前には現地状況を確認すること。

館山自動車道 豊成高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浜野橋 (下り線)	図面番号	/
橋 尺	P2橋脚 施工計画図(参考図)(その3)		
設計会社名	NIIX JAPAN 株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
	事務 管理 事務所		

ブラケット取付用ボルト S=1:10



ビーム取付用ボルト S=1:10

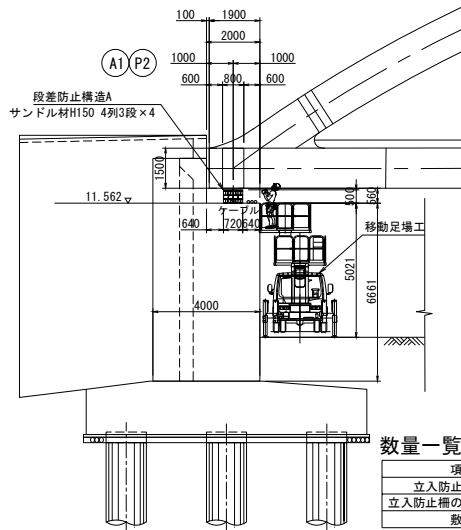


浜野橋（上下線）段差防止構造施工計画図(参考図)

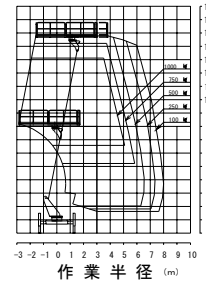
19 / 22

起点側施工計画図 S=1:200

(側面図)



アウトリガ中間1張出

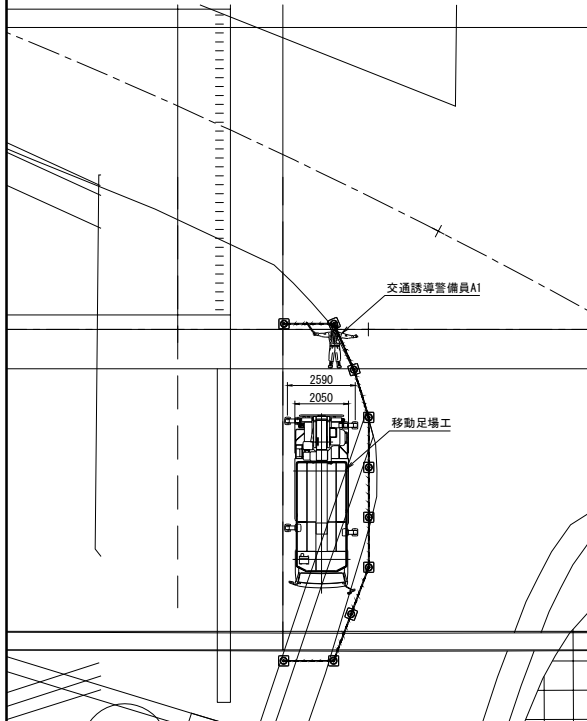


サンドル材 (8-サンドル 150x150x720) 232kg
作業員 (1人) 80kg
工具等 (仮定) 20kg
1000kg > 332kg

数量一覧表

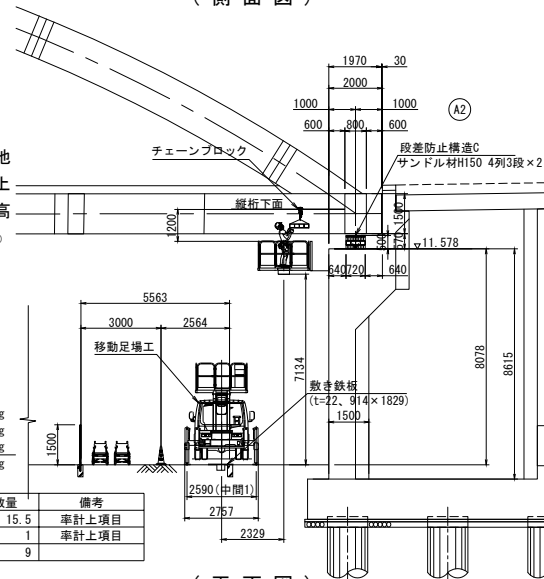
項目名称	区分	単位	数量	備考
立入防止柵撤去設置工	一般型非積雪地用	m	15.5	率計上項目
立入防止柵の出入口撤去設置工	一般型非積雪地用	箇所	1	率計上項目
敷き鉄板	0.9×1.8×22	枚	9	

(平面図)

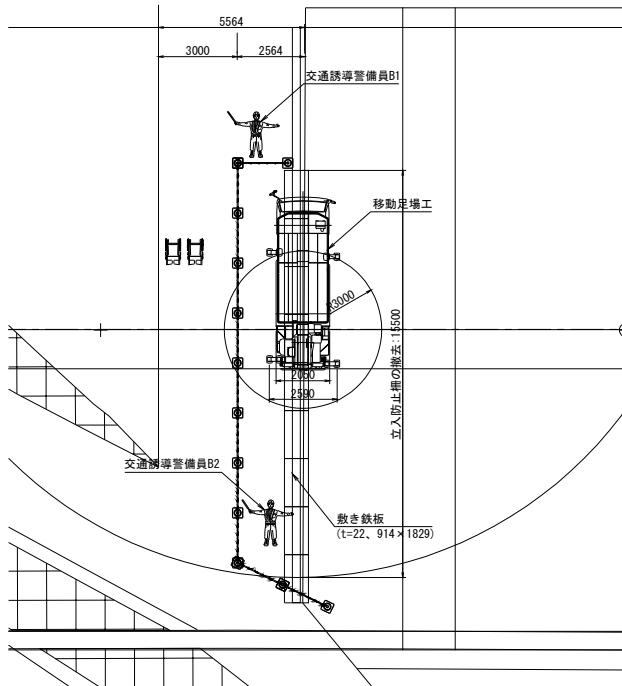


終点側施工計画図 S=1:200

(側面図)



(平面図)

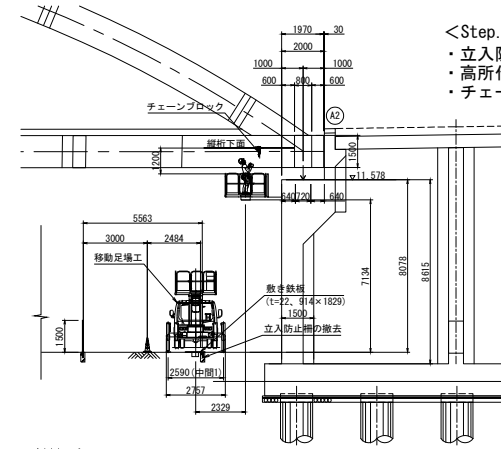


施工手順図 S=1:250

(終点側)

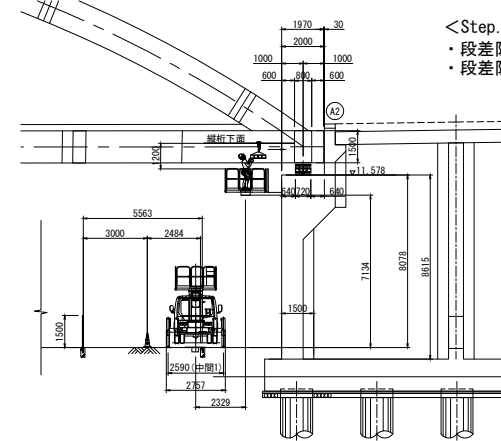
<Step.1>

- ・立入防止柵の撤去
- ・高所作業車の据付け
- ・チェーンブロック、トロリの設置



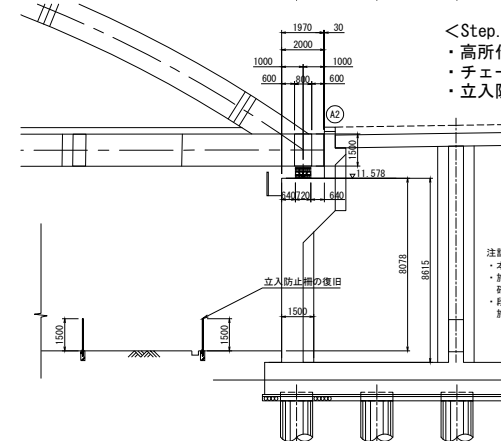
<Step.2>

- ・段差防止構造部材の運搬
- ・段差防止構造の設置



<Step.3>

- ・高所作業車の撤去
- ・チェーンブロック、トロリの撤去
- ・立入防止柵の復旧



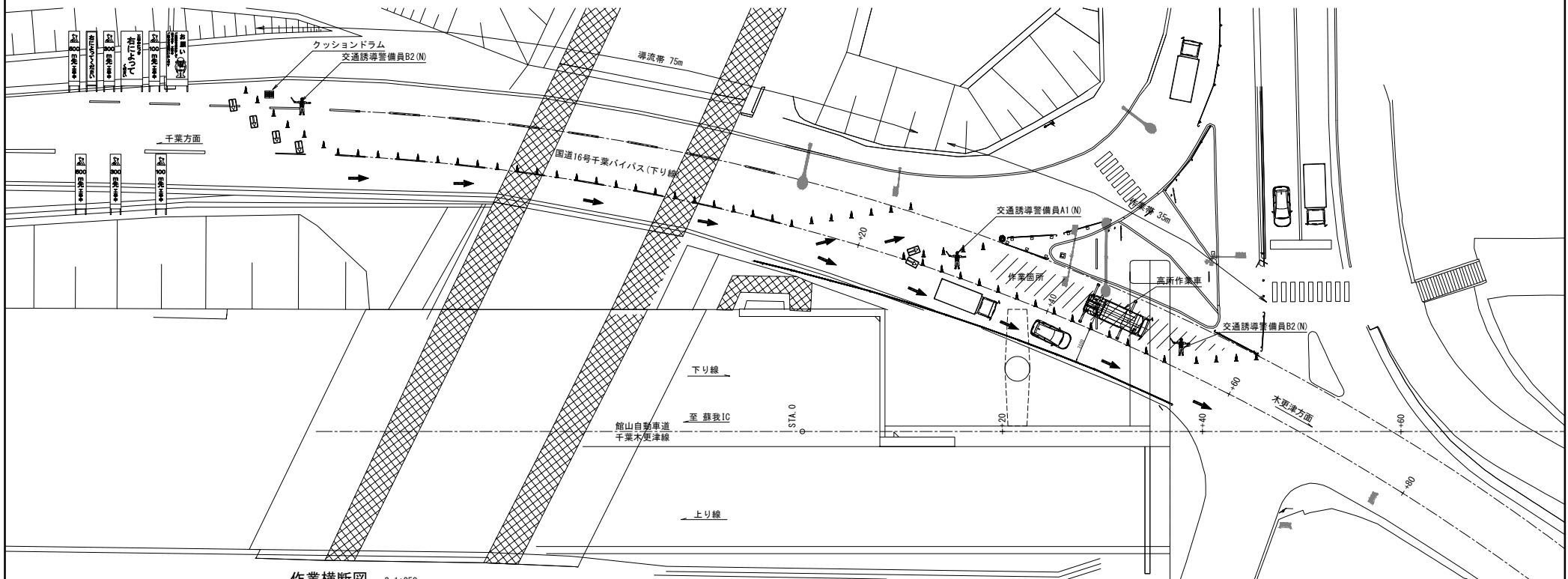
注記)
・本図面は竣工図面および点群測量に基づき作成している。
・施工前には事前に現地計測等を行い、現況との整合確認を行うこと。
・段差防止構造は標準図に基づいて作図しているため、施工前には必ず構造形状等を確認すること。

館山自動車道 豊成高架橋耐震補強工事	図面の種類	浜野橋（上下線） 段差防止構造施工計画図(参考図)
縮尺	図示	図面番号 /
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社	
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所	

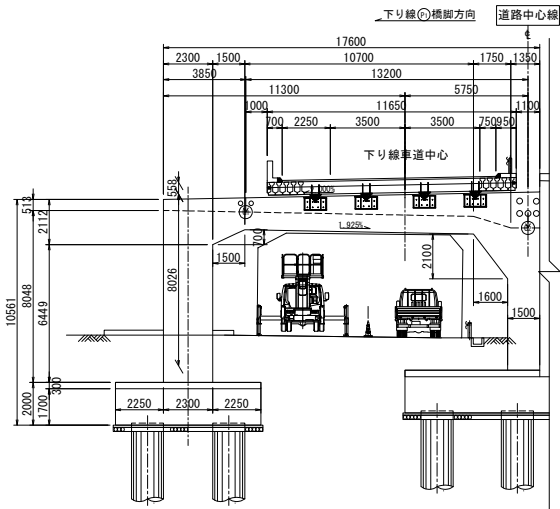
浜野橋（下り線）P2橋脚 一般道路交通規制図(参考図)(その1) S=1:400
(吊足場設置撤去時・梁施工時(夜間施工))

20 / 22

平面図
(走行車線規制)



作業横断面図 S=1:250



凡例

名称	交通の流れ	交通誘導員	クッションドラム	ラバーコーン	矢印板	工事看板	工事予告
凡例図							

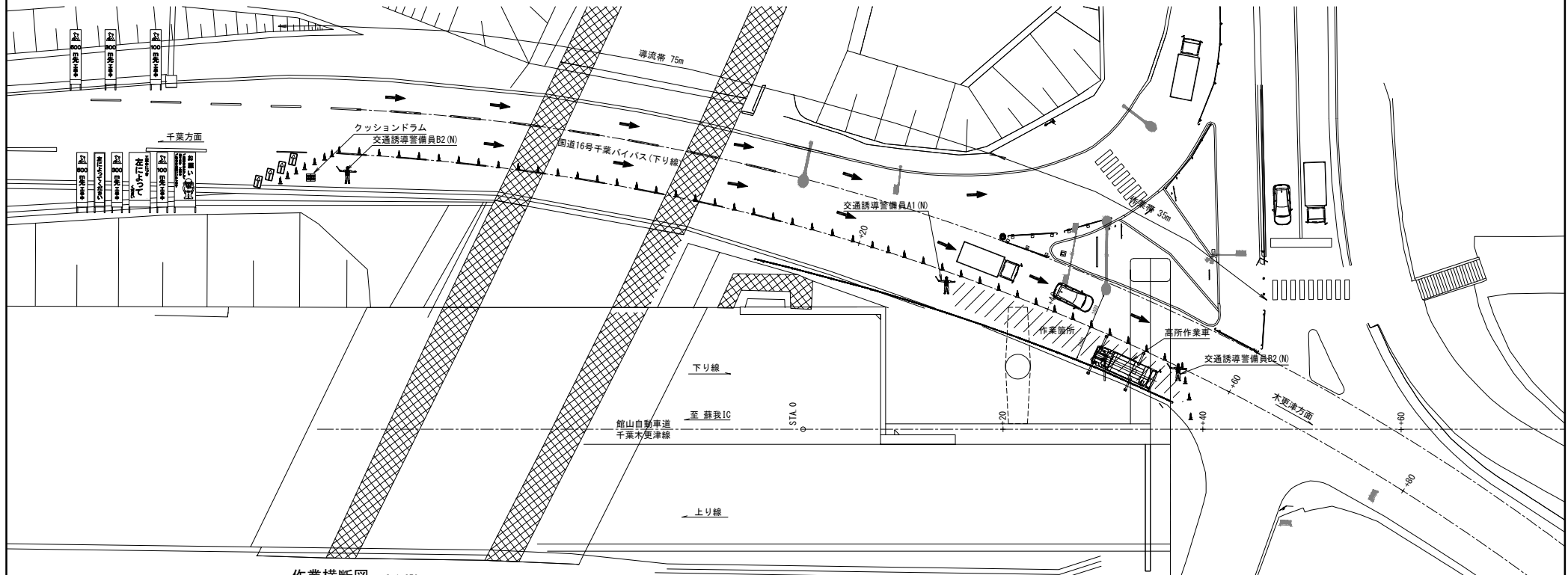
※矢印板は高輝度又はLEDタイプとし、夜間の規制は規制標識を高輝度タイプ、ラバーコーン上部に自発光式デリネーターを設置する。
※工事(作業)箇所付近のラバーコーンは10m間隔で設置し、ラバーコーン上部に自発光式デリネーターを設置する。

注記
1. 本図面は竣工図面に基づき作成している。
2. 施工時には事前に現地計測を行い、現況との整合確認を行うこと。

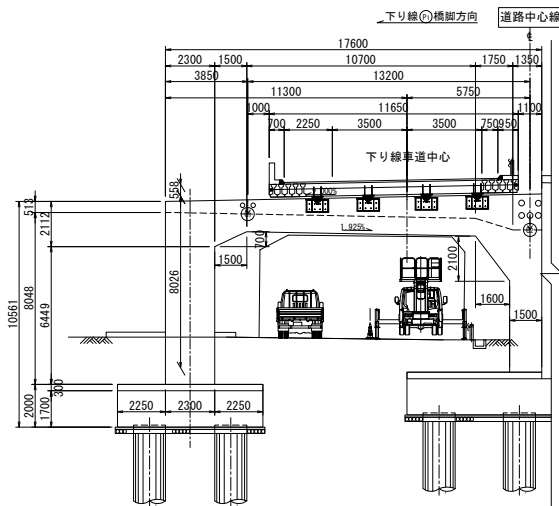
館山自動車道 豊成高架橋耐震補強工事			
浜野橋 (下り線)			
図面の種類	P2橋脚 一般道路交通規制図(参考図)(その1)	図示	図面番号 /
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

(吊足場設置撤去時(夜間施工))








平面図
(追越車線規制)



作業横断図 S=1:250



凡例

名称	交通の流れ	交通誘導員	クションドラム	ラバーコーン	矢印板	工事看板	工事予告
凡例図							

※矢印板は高輝度又はLEDタイプとし、夜間の規制は規制標識を高輝度タイプ、

ラバーコーン上部に自発光式デリネーターを設置する。

※工事(作業)箇所付近のラバーコーンは10m間隔で設置し、ラバーコーン上部に自発光式デリネーターを設置する。

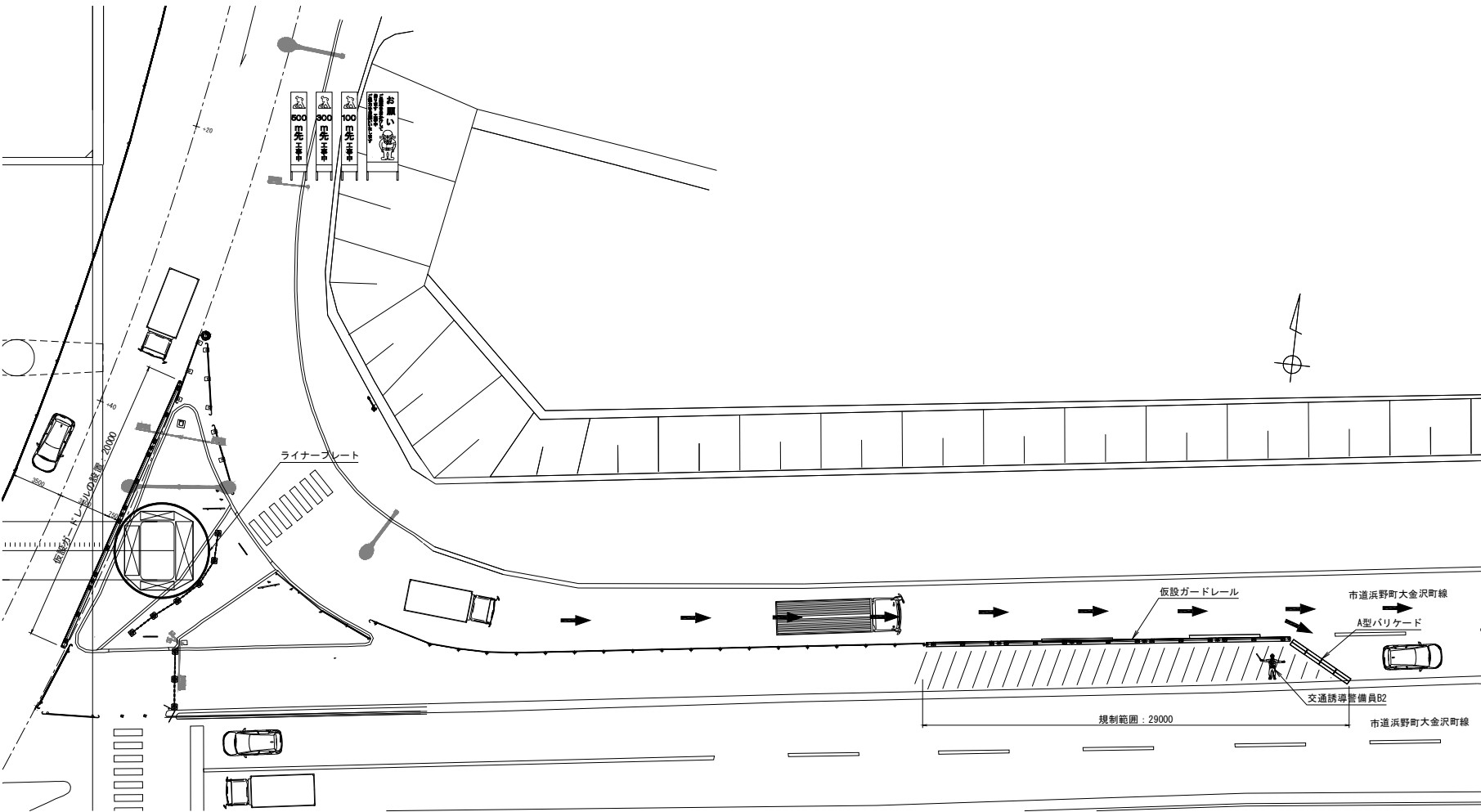
注記)

1. 本図面は竣工図面にに基づき作成している。
2. 施工前には事前に現地計測等を行い、現況との整合確認を行うこと。

館山自動車道 豊成高架橋耐震補強工事			
図面の種類	浜野橋（下り線） P2橋脚 一般道路交通規制図（参考図）（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 田 管 理 事 務 所		

(柱・梁施工時)

平面図
(1車線規制)



凡例

名称	交通の流れ	交通誘導員	ラバーコーン	矢印板	工事看板	工事予告
凡例図						

※矢印板は高輝度又はLEDタイプとし、夜間の規制は規制標識を高輝度タイプ、ラバーコーン上部に自発光式デリネーターを設置する。
※工事(作業)箇所付近のラバーコーンは10m間隔で設置し、ラバーコーン上部に自発光式デリネーターを設置する。

注記)
1. 既設ガードレールの諸元は現地状況(路線や支柱間隔)から推定している。施工前には道路管理者と協議し、道路規格や設置するガードレール規格について確認すること。
2. 復旧するガードレールは、既設ガードレールと同等規格を想定している。
3. 本図は既存の測量平面図を基本としているが、一部平面情報が不足する範囲については、航空写真より再現している。施工前には現地状況を確認すること。

館山自動車道 豊成高架橋耐震補強工事				
浜野橋（下り線）				
図面の種類	P2橋脚 一般道路交通規制図(参考図)(その3)	図示	図面番号	/
設計会社名	NIX JAPAN 株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所			